第13回全国高校選抜大会

男子 横浜商工が2年ぶり3回目の栄冠
女子 宣真が念願の初優勝を飾る

第13回全国高校選抜大会は、3月24日から28日までの5日間、愛知県体育館で開催された。男子は、4年連続決勝進出の横浜商工（神奈川）と桃山学院（大阪）の決勝対決となった。横浜商工が堅さの見えた桃山に対しスタートダッシュよくリードを奪い、そのまま逃げ切って2年ぶり3回目の優勝を飾った。

女子は、宣真（大阪）と名短大付（愛知）の決勝対決となったが、両チーム共に最後まで譲らぬ息づまる熱戦となり、終了間際のPTで決勝点をあげた宣真が、念願の初優勝を飾った。

大活躍を見せた桃山学院・市原選手

男子

1回戦

高岡向陵（富山）27（15—11, 12—11）22 那賀（和歌山）

〔戦評〕手の内の探り合いから、前評判の高かった高岡向陵に対し、那賀・金川のロングシュートやポストシュートによって確実に加点。高岡向陵も白川の巧みなシュートで追い上げるが、那賀の粘りのあるディフェンスに攻めあぐみ、立ち上がり那賀のペース。しかし、高岡向陵も15分過ぎからようやくエンジンがかかり、1点差として前半を終了。

後半に入ると、高岡向陵が先手先手をとって加点し、じりじりと那賀を引き離して逃げ切った。

〔那賀〕	得		〔向陵〕	得
山崎	0	GK	畠井	0
加藤	0	GK	崎野	0
藤岡	5	FP	薮下	1
金川	9	FP	藤坂	12
白山	1	FP	中西	3
神前	0	FP	宮崎	2
住岡	0	FP	高原	0
岡本	0	FP	大野	0
木村	0	FP	高橋	0
土岐	5	FP	白川	5
引口	0	FP	河原	4
生熊	0	FP	安川	0
(1)	22	PT	27	(4)

（審・天神、足立）

香川中央（香川）22（9—7, 9—11, 2—3, 2—0）21 興南（沖縄）

〔戦評〕開始早々、香川中央・平田がサイドシュートで先制。その後もポスト、サイド、ミドルシュートと多彩な攻撃で着実に加点。一方興南は、動きが固く、相手GKの好守に阻まれ、なかなか得点が伸びず苦しんだが、棚原のサイドシュートなどで追い上げ、9—7と2点差にして前半を終了。

後半に入って、興南の速攻が連続して決まって同点に追いつき、その後は一進一退の攻防が続いた。結局互いに譲らず延長戦となったが、終了直前、香川中央・川田のロングシュートが決まって大熱戦に終止符を打った。

〔興南〕	得		〔香川〕	得
河崎	0	GK	正木	0
我那覇	0	GK	相馬	0
前原	1	FP	山本	3
木村	3	FP	山田	1
山内	3	FP	明石	0
上原	0	FP	増本	3
名嘉	4	FP	村瀬	0
棚原	8	FP	藤沢	1
棚原	2	FP	平田	5
宮里	0	FP	川田	5
比嘉	0	FP	入谷	0
徳松	0	FP	大山	4
(1)	21	PT	22	(4)

（審・岩本、板倉）

市岐阜商（岐阜）18（10—5, 8—6）11 函館有斗（北海道）

〔戦評〕函館有斗はスピードあふれるボール回しから攻めるが、市岐阜商の激しいディフェンスに得点を入れることができない。市岐阜商は、その間、サイドシュート、

速攻などで有利に試合を運ぶ。6分、函館有斗・神山が45度を外へ割って得点をあげる。しかし、その後も市岐阜商はGK渡辺の好プレーなどで試合を優勢に運び、前半を10－5とリードして終了。

後半の展開は前半同様で、市岐阜商が勝利を収めた。

〔有斗〕	得		得	〔岐阜商〕
鈴木	0	GK	0	渡辺
藤巻	0		0	渡辺
渡部	0	FP	7	富田
納谷	3		1	杉山
鳶澤	2		1	栗田
小椋	0		2	近藤
神山	6		0	上吉原
渡辺	0		7	長谷川
佐藤	0		0	水島
浜西	0		0	鈴木
篠田	0		0	加藤
新妻	0		0	塩谷
		（審・光安、中山）		
(2)	11	PT	18	(1)

育英（兵庫）27〔15－14 / 12－8〕22 呉港（広島）

〔戦評〕開始直後から速い展開で試合が進められる中、育英が田中のステップ、上野のサイドシュートで先制する。その後、呉港が速いパスワークから全員で得点をあげ反撃を見せるが、育英が15－14と1点をリードして前半を折り返した。

後半に入っても両チーム共スピードを生かした一進一退の好ゲームとなる。後半13分、呉港の斉藤がペナルティスローを決め同点とするが、田中、高木らフローターの活躍で試合の流れをつかんだ育英が27－22で試合をものにした。

〔呉港〕	得		得	〔育英〕
小玉	0	GK	0	西條
川崎	0		0	水谷
斉藤	7	FP	0	平岡
谷口	2		3	伊藤
中須賀	4		6	上野
川本	4		8	田中
豊川	2		9	高木
盛谷	0		0	森田
藤光	3		0	守口
中本	0		1	北村
川村	0		0	松岡
福田	0			
		（審・今井田、工藤）		
(1)	22	PT	27	(0)

学法石川（福島）21〔11－8 / 10－7〕15 浦和学院（埼玉）

〔戦評〕立ち上がりから両チーム共スピードに乗った動きでよく攻め合ったものの、学法石川が矢吹の4連続ゴールなどで11－8として前半を終了した。

後半も学法石川がよく守り、よく走り、点差を徐々に広げていった。

〔浦和〕	得		得	〔石川〕
平賀	0	GK	0	本田
諸橋	0		0	荒川
渋谷	0	FP	0	辻
佐々木	3		4	添田
山口	0		4	小針
江湖	3		2	藤田
田部井	2		1	角田
上久保	5		2	三瓶
葉山	2		0	岡部
遠藤	0		1	遠藤
大高	0		7	矢吹
斉藤	0		0	添田
		（審・太田、細沢）		
(0)	15	PT	21	(3)

明星（東京）25〔10－9 / 15－7〕16 四日市工（三重）

〔戦評〕立ち上がり四日市工のマンツーマン・プレス、明星の速い攻撃と両者共に持ち味を出し、ミスの少ないゲーム展開となる。

後半、地力に勝る明星が足を生かした攻撃で着実に加点する一方7分30秒まで点のとれない四日市工が苦しい展開となり、途中、3連続PTと追撃を見せたが、明星が速攻などで粘る四日市工をふり切った。

〔四日市〕	得		得	〔明星〕
吉川	0	GK	0	梶山
松本	0		0	小林
寺嶋	3	FP	3	佐藤
青柳	0		6	島沢
近俊	1		0	斉藤
岡	7		5	田代
服部	2		3	高井
楠井	1		0	菊地
中村	1		0	木多
矢田	0		7	高橋
国分	1		0	二宮
上村	0		1	鈴木
		（審・国府、酒井）		
(6)	16	PT	25	(2)

日大明誠（山梨）19〔8－9 / 11－5〕14 正強（奈良）

〔戦評〕前半立ち上がり1分以内に警告を受けるというディフェンスの荒さが目立った。10分までは日大明誠が正強のディフェンスに対して苦しまぎれに打ち、速攻または2次速攻からずらすという展開で進む。前半は9－8の1点差で折り返す。

後半も一進一退で、互いにミスが多く、単調な展開となる。日大明誠は、残り3分30秒に同点とし、その後カットイン、PT、速攻と連続して加点、勝利を握った。

〔正強〕	得		得	〔明誠〕
矢内	0	GK	0	松本
薮田	0		0	吉田
岡本	1	FP	1	水越
上武	0		3	小沢
宮本	3		2	秋山
堀江	6		3	奥津
栄枝	0		8	浅野
鶴田	4		0	岸
堀江	0		0	広野
西岡	0		0	田坂
木山	0		2	市川
堤	0		0	梶本
		（審・楓、渡辺）		
(5)	14	PT	19	(2)

松山北（愛媛）20〔11－6 / 9－5〕11 釧路湖陵（北海道）

〔戦評〕両チーム共に速いボール回しでディフェンスをゆさぶり、得点チャンスをうかがう展開となる。前半、主導権を握ったのは松山北で、ディフェンスもよく、釧路湖陵を引き離しにかかる。

後半も前半同様スピーディな展開となる。しかし、シュートチャンスを確実に得点する松山北に対し、ペナルティスローを含めことごとく相山GKに阻まれ、得点できない釧路湖陵という対象的なゲーム内容となり、松山北が20－11で勝利をものにした。

〔釧路〕	得		得	〔松山北〕
小川	0	GK	0	大森
清水	0		0	佐々木
亀山	4	FP	2	豊田
中川	3		0	友近
伊藤	0		2	武村
水谷	2		0	竹下
蔵光	0		2	成松
飴	0		10	中野
松山	2		4	吉金
長岡	0		0	矢野
中川	0		0	山田
松井	0		0	大塚
		（審・神谷、秋山）		
(1)	11	PT	20	(1)

桃山学院（大阪）34〔17－6 / 17－9〕15 青森商（青森）

〔戦評〕激戦区の大阪を勝ち抜いてきた桃山学院が攻守共に一歩勝っており、前半のみで7得点をあげたフローターの市原を中心に完全にペースをつかんでであった。

後半、桃山学院は前半とは全く攻撃パターンを変え、市原にはほとんど打たせず、速攻とサイド攻撃により着実に得点を加えていった。青森商の名古屋もパワーあるシュートを見せていたが、桃山学院の多彩なプレーに圧倒されてしまったようである。

〔青森商〕	得		得	〔桃山〕
鈴木	0	GK	0	田端
竹森	0		0	福谷
佐藤	4	FP	4	藤田
高谷	2		7	市原
名古屋	7		6	中瀬
牧野	2		4	市村
岡村	0		7	下山
工藤	0		1	高橋
穐元	0		2	中久喜
福田	0		1	白鳥
成田	0		2	鈴木
佐々木	0			
		（審・太田、細沢）		
(0)	15	PT	34	(2)

金沢市工（石川）29〔14－7 / 15－15〕22 愛知（愛知）

〔戦評〕開始直後より愛知は金沢市工・高畠をマンツーマンする作戦に出た。愛知・掛川の先制で始まったゲームだが、金沢市工が多彩な攻撃パターンを見せて得点を重ね、14－7と前半をリードした。

後半立ち上がりは、両チーム共にミスが多かったが、調子の出てきた愛知が先手を取る展開となった。中盤以降、金沢市工もマンツーマンから解放された高畠の高打点のロングシュートを中心に得点を加え、点の取り合いとなった。

結局、前半の貯金を守り切った金沢市工が勝利を収めた。

〔愛知〕

	選手	得
GK	笹辺	0
GK	馬淵	0
FP	佐橋	2
FP	和佐田	2
FP	奥村	0
FP	水野	3
FP	掛川	4
FP	胡桃沢	1
FP	安藤	1
FP	南部	0
FP	久保	2
FP	中山	7
計	PT (1)	22

〔金沢工〕

	選手	得
GK	小寺	0
GK	生瀬谷	0
FP	高島	11
FP	北村	4
FP	笹浪	0
FP	松田	4
FP	松本	7
FP	永原	0
FP	南野	3
FP	高	0
FP	山城	0
FP	山本	0
計	PT (3)	29

（審・秋永・前川）

2回戦

横浜商工（神奈川）32 〔13—12, 19—7〕 19 高岡向陵

〔戦評〕前半、横浜商工は変則的なパス回しからポスト、カットインと多彩な攻撃により得点、高岡向陵は藤坂、白川の打点の高いロングで一進一退のゲーム展開となり、13—12と横浜商工の1点リードで前半を終了。

後半に入って、高岡向陵は横浜商工の堅い守りに対して動きが悪くなり、ミスが多くなる。横浜商工はリズムに乗って速攻により突き放し、一方的なゲームとなった。

〔向陵〕

	選手	得
GK	井畠	0
GK	野崎	0
FP	藪下	2
FP	藤坂	8
FP	中西	2
FP	宮崎	5
FP	高原	0
FP	大野	0
FP	高橋	0
FP	白川	2
FP	河原	0
FP	安川	0
計	PT (2)	19

〔横浜〕

	選手	得
GK	本郷	0
GK	戸辺	0
FP	本郷	1
FP	西村	10
FP	関根	3
FP	太刀川	6
FP	後藤	3
FP	堀川	4
FP	沢田	1
FP	中村	4
FP	木村	0
FP	宮沢	0
計	PT (2)	32

（審・森・川島）

市岐阜商 11 〔8—2, 3—3〕 5 香川中央

〔戦評〕両者共よく走り、きびきびした立ち上がり。先取点は香川中央・藤沢のシュートであったが、徐々に市岐阜商が地力を発揮、次々と走り込んでは追っかけのロング、ミドルで加点。それに対し香川中央も長身・山本のシュートで応戦するのだが、GK渡辺の好守にあって22分間ノーゴール。前半は8—2と市岐阜商が6点リードして折り返した。

後半に入ると、やや荒れ気味の展開で両チーム共警告、退場者を出すが、その間に今一つ決め手を欠き、結局後半は3—3のロースコアー。前半のリードを守った市岐阜商が逃げ切った。

〔香川〕

	選手	得
GK	正木	0
GK	相馬	0
FP	山本	2
FP	山田	0
FP	明石	0
FP	増本	0
FP	村瀬	0
FP	藤沢	2
FP	平田	1
FP	川田	1
FP	入谷	0
FP	大山	0
計	PT (1)	6

〔岐阜商〕

	選手	得
GK	渡辺	0
GK	渡部	0
FP	富田	2
FP	杉山	5
FP	栗田	0
FP	近藤	0
FP	上吉原	0
FP	長谷川	3
FP	水島	0
FP	鈴木	0
FP	加藤	0
FP	塩谷	0
計	PT (1)	10

（審・太田・細沢）

久工大附（福岡）29 〔17—8, 12—11〕 19 育英

〔戦評〕前半開始から2—4と育英のペースと思えたが、久工大附・川崎のロング、植村のカットインプレーなどで7連続得点あげ、コツコツと点差を広げていった。その後、育英・伊藤のロングなどで追いかけるが、久工大附のカットイン、速攻、スカイプレーと多彩な攻撃で前半を17—8とリードを広げた。

後半に入り、育英のサウスポー伊藤、田中に当たりが見え始め、一進一退の攻防が展開される。再び久工大附のスピードを生かした速攻が決まり出し、川崎のロングシュート、ステップシュートなどを交えて結局29—19で久工大附が勝利を収めた。

〔育英〕

	選手	得
GK	西條	0
GK	水谷	0
FP	平岡	0
FP	伊藤	7
FP	上野	2
FP	田中	4
FP	高木	4
FP	森田	1
FP	守口	0
FP	北村	1
FP	松岡	0
計	PT (3)	19

〔久工大〕

	選手	得
GK	宮本	0
GK	坪根	0
FP	古賀	3
FP	柳	0
FP	田中	1
FP	三津	0
FP	植村	5
FP	江口	5
FP	川崎	8
FP	肥山	5
FP	山口	2
FP	中村	0
計	PT (3)	29

（審・酒井・国府）

学法石川 26 〔9—10, 9—8, 4—1, 4—0〕 19 桜台（愛知）

〔戦評〕学法石川・矢吹のロングシュート、カットインプレーがたて続けに決まり、学法石川の余裕のゲーム展開と予想された。しかし、桜台はラッキーボーイともいえる島本の攻撃で遂に前半15分、7—7の同点に追いついた。さらに、GKの好守、速攻で桜台が1点をリードして前半を終了。

後半はお互いに譲らず、警告、退場も含め大荒れのゲームとなった。残り30秒、学法石川は同点とし、延長戦にもつれ込んだ。勢いに乗った学法石川は着実に得点を重ね、桜台を引き離した。あせりの出た桜台に対し、意地を見せた学法石川の試合であった。

〔桜台〕

	選手	得
GK	荻山	0
GK	日原	0
FP	中村	2
FP	島本	9
FP	稲田	3
FP	村山	0
FP	山添	0
FP	旭	2
FP	加藤	0
FP	林	3
FP	深川	0
計	PT (2)	19

〔石川〕

	選手	得
GK	本田	0
GK	荒川	0
FP	辻	0
FP	添田	2
FP	小針	9
FP	藤田	2
FP	角田	2
FP	三瓶	2
FP	岡部	0
FP	遠藤	0
FP	矢吹	9
FP	添田	0
計	PT (5)	26

（審・今井田・工藤）

大分電波（大分）25 〔12—13, 13—7〕 20 明星

〔戦評〕共に力のハンドボールを目標とする両チームは、立ち上がりよりスピードとパワーで盛り上がりをつくり出した。5分までにカットイン、PT、ポストと3点をリードした大分電波も10分までには明星・鳥沢の45度のロングをきっかけに速攻、ポストで連続得点をあげ4—4の同点とする。その後ポストへのパスを多用する大分電波のミスにも助けられ、ディフェンスから速攻、遅攻になればサイド、ポスト、45度と得点源を

しぼらせない展開。大分電波もポスト、45度と対応し、前半を互角に終える。
後半10分までに7得点をあげる大分電波はムードに乗り、明星の得点を1点に押さえ、優位に立つ。明星はあせりからか自滅の感もある展開であった。

	〔明星〕	得		〔電波〕	得
GK	梶山	0	GK	鶴原	0
	小林	0		楠浦	0
FP	佐藤	3	FP	渡部	3
	島崎	6		薬師寺	4
	斉藤	0		前田	0
	田代	3		入江	2
	高井	2		工藤	2
	高橋	4		宇多村	4
	本多	2		根石	0
	二宮	0		穴井	10
	鈴木	0		津山	0
				山崎	0
PT		(2) 20	PT		(2) 25

〔審・岩本・板倉〕

下松工（山口）28〔13—6 15—7〕13 日大明誠

〔戦評〕立ち上がりから下松工は空間を上手く使ったクロスから左腕・広政がミドルシュート、カットインで次々と加点。これに対し日大明誠も何とか速い展開に持ち込もうと走るのだが、今一つコンビがかみ合わず、前半は13—6と下松工がリード。
後半も下松工はのびのびとコートをかけ回り、多彩な攻撃を見せて快勝。日大明誠はあせって早打ちが目立ち、力を出し切れずに終った。

	〔明誠〕	得		〔下松工〕	得
GK	松本	0	GK	亀山	0
	吉田	0		荻原	0
FP	水越	1	FP	湯浅	0
	小沢	4		北風	3
	秋山	3		清水	3
	奥津	3		河内	2
	浅野	2		高杉	10
	岸	0		吉岡	0
	広野	0		市妙	2
	田坂	0		山本	0
	市川	0		広政	8
	梶本	0		坂根	0
PT		(2) 13	PT		(7) 28

〔審・神谷・秋山〕

桃山学院25〔10—9 15—8〕17 松山北

〔戦評〕先制したのは松山北・豊田が強引にカットイン。しかし、桃山学院は速攻で簡単に逆転した。そして7分過ぎから約10分間、桃山学院は厚いディフェンスで失点0、攻めては速攻、PTなどで着実に得点を積み重ねた。松山北は20分過ぎから中野のジャンプフェイントなどで盛り返そうとするが、差は縮まらず、前半を15—8と桃山学院リードで終えた。
後半は、まず桃山学院・下山がパスカットからドリブルで持ち込み得点、その後も桃山学院ディフェンスは再三パスカットから攻撃をくり出す。中盤からは選手交替も多く、桃山学院は余裕の試合運びとなった。松山北は吉金がサイドをつくが、点差は縮まらず、結局25—17と桃山学院が勝利を得た。

	〔松山北〕	得		〔桃山〕	得
GK	大森	0	GK	田端	0
	佐々木	0		福谷	0
FP	豊田	1	FP	藤田	0
	友近	0		市原	2
	武村	1		中瀬	5
	竹下	0		市村	3
	成松	2		下山	8
	中野	5		高橋	2
	吉金	8		中久喜	1
	矢野	0		白鳥	4
	山田	0		鈴木	0
	大塚	0			
PT		(0) 17	PT		(3) 25

〔審・今井田・工藤〕

金沢市工23〔9—11 14—11〕22 東京学館浦安(千葉)

〔戦評〕エース同士のロングシュートの打ち合いで始まったゲームは、立ち上がりから両チーム共堅さが目立ち、ミスが多く、再三のシュートチャンスを得点できなかった。いったんはリードを許した東京学館浦安であったが、ディフェンスで粘り強く頑張り、相手チームの反則を誘い、リズムに乗るとロング、ポストと多彩な攻撃で得点を重ね、前半をリードして終えた。
後半に入り、金沢市工はディフェンスを1・5に変え、高畠を中心に攻守共に粘りを見せ、10分には同点に追いついた。最後まで勝敗のわからない好ゲームとなったが、残り7分、浦安の退場により優位に立った金沢市工がリードを保ち逃げ切った。

	〔学館〕	得		〔金沢工〕	得
GK	小野	0	GK	小寺	0
	竹内	0		生瀬谷	0
FP	尾沼	7	FP	高畠	9
	太田	9		北村	0
	秋元	2		笹浪	2
	伊藤	0		松田	5
	小松	4		松本	4
	鈴木	0		永原	0
	酒井	0		南野	3
	高橋	0		高	0
	広瀬	0		山城	0
	鈴木	0		山本	0
PT		(4) 22	PT		(0) 23

〔審・楓・渡辺〕

3回戦

横浜商工21〔9—6 12—6〕12 市岐阜商

〔戦評〕前評判の高い両チームの試合とあって、開始早々から激しい攻防がくり広げられた。横浜商工の巧みなパスワークと市岐阜商の長身・杉山を中心とした攻撃で一進一退の攻防となったが、前半19分、市岐阜商・栗田の退場を機に横浜商工・堀川の速攻などで得点を加え、9—6と横浜商工の3点リードで前半を終了した。
後半開始早々、市岐阜商・冨田のサイドシュートが決まったが、その後横浜商工は西村を中心に6連続得点し、立ち上がり15分までに18—8とリードが広がった。その後も独特のパス回しと速攻で得点を加え、一方的な試合展開となった。

	〔岐阜商〕	得		〔横浜〕	得
GK	渡辺	0	GK	本郷	0
	渡部	0		戸辺	0
FP	富田	1	FP	本郷	0
	杉山	5		西村	7
	栗田	1		関根	2
	近藤	0		太刀川	4
	上吉原	0		後藤	3
	長谷川	4		堀川	3
	水島	0		岡山	0
	鈴木	0		沢田	1
	加藤	1		中村	1
	塩谷	0		木村	0
PT		(1) 12	PT		(3) 21

〔審・神谷・秋山〕

久工大附21〔10—5 11—6〕11 学法石川

〔戦評〕ベスト4をかけて両チー

ム共激しい攻防をくり広げる。前半開始早々、久工大附が4ポイントを連取。しかし、5分過ぎあたりから学法石川も持ち前の速攻を武器に反撃を開始、必死に久工大附のディフェンス網を破ろうとする。結局、前半は久工大附が序盤のリードを守り10—5で終了。

後半が始まって久工大附・川崎が連続退場となり、学法石川が追い上げるかに見えた。しかし、単調な攻めでゴールを破れず、逆に久工大附にリードを広げられる展開となる。結局、GK坪根を中心とした固いディフェンスの久工大附が学法石川を退け、ベスト4進出を果たした。

〔石川〕	得		得	〔久工大〕
本田	0	GK	0	宮本
荒川	0	GK	0	坪根
辻	0	FP	2	古賀
添田	2	FP	1	柳
小針	3	FP	1	田中
藤田	0	FP	0	植村
角田	2	FP	2	江口
三瓶	0	FP	8	川崎
岡部	0	FP	0	三谷
遠藤	0	FP	4	肥山
矢吹	4	FP	0	山口
添田	0	FP	3	中村
(3)	11	PT	21	(2)

（審・秋永、前川）

大分電波 20（8—9、12—9）18 下松工

〔戦評〕試合開始から両チーム共にスピードとパワーを生かした得点の取り合いが展開された。速攻、セットプレーと両チーム共互角の戦い展開していくが、大分電波のエース穴井にマンツーマンディフェンスを仕掛けていった下松工が終始試合をリードし、[illegible]—8と1点リードで前半を終了した。

後半に入っても、前半同様スピーディな試合展開で一進一退の攻防となったが、マンツーマンを受けながら9得点をあげた穴井を中心に得点チャンスを確実にものにしペースをつかんでいった大分電波が20—18で下松工をふり切った。

〔下松工〕	得		得	〔電波〕
亀山	0	GK	0	鶴原
荻原	0	GK	0	楠浦
湯浅	5	FP	1	渡部
北風	2	FP	7	薬師寺
清水	2	FP	0	前田
河内	0	FP	1	入江
高杉	3	FP	1	工藤
吉岡	0	FP	1	宇多村
市妙	2	FP	0	根石
山本	0	FP	9	穴井
広政	4	FP	0	津山
坂根	0	FP	0	山崎
(0)	18	PT	20	(1)

（審・楓、渡辺）

桃山学院 19（7—6、9—10、0—1、3—0）17 金沢市工

〔戦評〕立ち上がり、金沢市工は高畠のロングシュート、GKの好守によりペースをつかんだが、その高畠が膝を痛め、攻撃が雑となり、桃山学院がリズムをつかんで7—6と前半をリードした。

後半、やや金沢市工ペースとなり、残り2分には2点をリード。しかし、ここで勝ちを意識してミスが目立ち、同点となって延長戦に入る。

延長戦は金沢市工・高畠への桃山のマンツーマンが成功、19—17とせり勝つ。

〔金沢工〕	得		得	〔桃山〕
小寺	0	GK	0	田端
生瀬谷	0	GK	0	福谷
高畠	6	FP	0	藤田
北村	1	FP	2	市原
笹浪	2	FP	0	中瀬
松田	5	FP	4	市村
松本	3	FP	11	下山
永原	0	FP	2	高橋
南野	0	FP	0	中久喜
高	0	FP	0	白鳥
山城	0	FP	0	鈴木
山本	0	FP		
(1)	17	PT	19	(4)

（審・光安、中山）

準決勝

横浜商工 20（10—9、10—6）15 久工大附

〔戦評〕大型の久工大附、コンビネーションの横浜商工と楽しみなカードである。立ち上がり久工大附の速攻、対する横浜商工PTと一進一退の争いとなった。横浜商工・西村のカットイン、速攻と得意のコンビプレーから、前半10—9と1点をリードした。

後半に入り、横浜商工のコンビプレーのミスから久工大附は連続速攻で同点に追いつくが、横浜・太刀川のロングシュートなどで再び得点差を広げ始める。久工大附はGK坪根の再三の好キーピングもあったが、連続退場などがあり惜しいチャンスをつぶしてしまった。横浜商工が全員のコンビネーションプレーで20—15で勝利を収めた。

〔久工大〕	得		得	〔横浜〕
宮本	0	GK	0	本郷
坪根	0	GK	0	戸辺
古賀	2	FP	0	本郷
柳	0	FP	7	西村
田中	1	FP	3	関根
植村	0	FP	4	太刀川
江口	3	FP	3	後藤
川崎	3	FP	2	堀川
三谷	0	FP	0	沢田
肥山	4	FP	1	中村
山口	1	FP	0	木村
中村	1	FP	0	宮沢
(0)	15	PT	20	(3)

（審・酒井、国府）

桃山学院 25（11—8、14—8）16 大分電波

〔戦評〕双方共準々決勝で接戦を勝ちとっての準決勝進出。長身からくり出すロングシュートの打ち合いとなった前半、桃山学院は大分電波・宇多村へのチェックを厳しく行ない、リバウンドからの速攻などで連続得点。15分までは、7点のリードを広げるが、次第にエンジンのかかってきた大分電波も宇多村、入江の踏ん張りで3点差までに詰め寄り、前半を終了。

後半に入ると桃山学院のペースが続く。市原、市村のロングシュートに下山、高橋の両サイドが回り込みながらからみ、着実に得点

〔電波〕	得		得	〔桃山〕
鶴原	0	GK	1	田端
楠浦	0	GK	0	福谷
渡部	2	FP	0	藤田
薬師寺	1	FP	4	市原
前田	0	FP	2	中瀬
入江	3	FP	6	市村
工藤	0	FP	6	下山
宇多村	7	FP	4	高橋
根石	0	FP	0	中久喜
穴井	3	FP	2	白鳥
津山	0	FP	0	鈴木
山崎	0	FP		
(1)	16	PT	25	(1)

（審・森、川島）



横浜商工・太刀川選手

を重ねる。大分電波は宇多村がロングで得点をあげるが、穴井の不調が目立ち、あとが続かなかった。

決勝

横浜商工22（12—7, 10—8）15桃山学院

〔戦評〕前半開始早々、横浜商工が西村、太刀川らの活躍で5点を連取、好調な立ち上がりで主導権を握る。一方の桃山学院は、スピードある攻撃からシュートを放つが、決定力に欠け、リズムに乗れない。残り10分あたりから速攻などが決まり出し、桃山学院にも本来の動きが戻ってきた。結局、前半は序盤を優位に進めた横浜商工が12—7で終了。

後半も横浜商工のペース。桃山学院はエース市原のロングシュートがなかなか決まらず、苦しい展開を強いられる。何とかしようとシュートを放つものの横浜商工GKの好守もあり、点差は広がる一方である。

結局、本来の力を出し切った横浜商工が昨年の雪辱を果たして2年ぶり3回目の優勝を飾った。

得	〔横浜〕		〔桃山〕	得
0	本郷	GK	田端	0
0	戸辺	GK	福谷	0
0	本郷	FP	藤田	0
9	西村	FP	市原	3
3	関根	FP	中瀬	4
6	太刀川	FP	市村	2
1	後藤	FP	下山	4
0	堀川	FP	高橋	2
[illegible]	岡山	FP	中久喜	0
[illegible]	沢田	FP	白鳥	0
3	中村	FP	鈴木	0
0	木村	FP		
22	(3)	PT	(1)	15

（審・川島 森）

女子

1回戦

小杉（富山）14（5—9, 9—3）12 境（鳥取）

〔戦評〕前半立ち上がり、両者共堅さが見られたが、境は10分過ぎ遠藤のロングシュートをきっかけにポスト、カットインと加点し、主導権を握り、前半を9—5で終了した。

後半、小杉は立ち上がり3点を連取し、1点差とした。しかし、境も反撃、再びリードを広げたが、残り9分過ぎ小杉は石田の速攻で同点とし、さらに大前のカットインで逆転、あせる境のミスも手伝って小杉が逃げ切った。

得	〔小杉〕		〔境〕	得
0	島倉	GK	新谷	0
		GK	川部	0
0	下条	FP	後藤	5
0	宮脇	FP	立花	1
0	梶谷	FP	遠藤	3
0	片林	FP	板倉	0
1	石田	FP	足立	2
4	島	FP	根平	1
1	大郷	FP	阿部	0
2	川腰	FP	藤堂	0
5	大前	FP		
1	市橋	FP		
14	(4)	PT	(2)	12

（審・渡辺 楓）

夙川学院（兵庫）19（10—10, 9—6）16 高松東（香川）

〔戦評〕両チーム共立ち上がり堅さが見られ、ミスが目立った。高松東は夙川学院のミスにつけこみ橋谷が中心となって得点を重ねた。一方の夙川は、田淵のロングシュートで応戦、10—10の同点で前半を折り返した。

後半はシーソーゲームの展開となったが、しかし夙川は終了10分前、高松東・橋谷の退場をきっかけに疲れの見えた高松東を突き放し、勝利を飾った。

得	〔夙川〕		〔高松東〕	得
0	平塚	GK	多田	0
0	伊吹	GK		
2	藤原	FP	山本	0
1	碇	FP	岩沢	4
0	竹下	FP	横山	0
8	田淵	FP	多田	0
0	前田	FP	熊野	2
4	田口	FP	橋谷	10
0	財田	FP	赤松	0
1	柏木	FP	十河	0
3	選	FP	土井	0
0	井上	FP	綾野	0
19	(3)	PT	(2)	16

（審・川島 森）

水海道二（茨城）20（11—9, 9—7）16 本庄（宮崎）

〔戦評〕前半開始7分ぐらいまで両チーム共堅さが見られたが、水海道第二・高橋のカットイン、芦ヶ谷のポストシュートなどで着々と得点を重ねていく。一方本庄は佐藤のカットイン、ロングに頼りすぎている場面が多く見られたが広瀬のカットインなどで追いかけ前半は11—9と水海道二の2点リードで終了した。

後半や本庄・広瀬のロングシュートが冴えを見せ、1点差まで追いつくが、水海道二は芦ヶ谷のロング、カットインなどで再び引き離して勝利を収めた。

得	〔水海道二〕		〔本庄〕	得
0	柴	GK	長嶺	0
0	獅子倉	GK	坂田	0
3	軽部	FP	川崎	0
0	佐藤	FP	黒木	2
0	染谷	FP	田中	3
3	高橋	FP	出口	1
5	小谷内	FP	春元	0
5	芦ヶ谷	FP	廣瀬	6
3	鈴木	FP	染矢	1
1	森	FP	佐藤	3
0	日高	FP		
0	伊藤	FP		
20	(1)	PT	(1)	16

（審・川島 森）

聖和学園（宮城）22（15—2, 7—10）12 川崎北（神奈川）

〔戦評〕スピードとパワーで勝る聖和が一方的に攻める展開となる。聖和の目黒、石垣の両フローターを軸にロング、ポスト、サイドと多彩な攻撃で着実に加点。一方、川崎北は素早いパスワークから得点チャンスをつかもうとするが、固いディフェンスに阻まれ、結局前半を15—2で折り返す。

後半、堅さのとれた川崎北がのびのびとしたプレーで追い上げを

得	〔聖和〕		〔川崎北〕	得
0	庄司	GK	青木	0
0	今内	GK	北條	0
0	小田嶋	FP	岡本	0
5	目黒	FP	吉田	1
3	三島	FP	伊藤	4
3	山口	FP	高橋	1
6	石垣	FP	高田	0
0	宍戸	FP	大橋	0
0	沼倉	FP	小森	1
0	檜野	FP	吉崎	0
0	藤田	FP	沓掛	5
5	八重樫	FP	船山	0
22	(1)	PT	(4)	12

（審・秋山 神谷）

見せる。逆に前半の大差からプレーが雑になってきた聖和が苦しい展開を強いられる。一時は8点差まで迫ったが、しかし前半の点差があまりにも大きすぎた。

小松市女（石川）23〔14—5／9—5〕10 群馬女短付（群馬）

〔戦評〕両チーム共に大型ポストをダブルポストに配置し、セットオフェンスではポストを起点とした攻撃を展開した。前半は速攻、カットイン、ロングなど多彩な形で得点を重ねた小松市女が、ミスの多かった群馬女短付に14—5と大差をつけた。

後半、序盤は一進一退の展開となった。群馬女短付は小松市女の浮いたディフェンスに対してポストにボールを集めたが、再三のノーマークを小松市女GK小前田の好守に阻まれた。結局は、前半大きくリードした小松市女が大差で勝利を収めた。

得	〔小松女〕		〔群馬女〕	得
0	小前田	GK	神山	0
0	鐘森	GK	千葉	0
1	柳沢	FP	小川	0
8	三安	FP	高山	0
4	北村	FP	永田	3
1	服部	FP	神津	4
0	釣川	FP	発地	0
4	宮崎	FP	坂田	3
0	東野	FP	小池	0
3	土田	FP	美才治	0
0	北崎	FP	堀口	0
2	大野	FP	井上	0
23	(2)	PT	(2)	10

（審・秋永・前川）

函大女商（北海道）19〔12—2／7—6〕8 富雄（奈良）

〔戦評〕共に1・5ディフェンスからの展開。函大女商が立ち上がり先手をとる。しかし中盤、お互いミスの目立つ展開、函大女商が12—2と大きくリードして前半を終了。

後半0・6ディフェンスに変えるが、富雄はやはり攻めあぐみ、なかなか追加点をあげることができない。時折、相手ミスからの速攻で加点できるだけで、前半の大差をつめることはできなかった。

得	〔函館〕		〔富雄〕	得
0	佐藤	GK	南	0
0	竹原	GK	久保田	0
5	森山	FP	上坂	2
2	長谷川	FP	北田	0
1	桜井	FP	平井	1
6	岡崎	FP	古市	1
0	丸山	FP	重村	0
3	松坂	FP	宮川	0
2	小島	FP	道浦	4
0	三輪	FP	間	0
0	石田	FP	坂井	0
0	平井	FP	宮宗	0
19	(3)	PT	(1)	8

（審・中野・細井）

暁（三重）29〔12—3／17—5〕8 釧路商（北海道）

〔戦評〕前半、スローペースで始まり、両チーム共攻撃のしかけが遅く、立ち上がりなかなか得点が入らなかったが、暁が釧路商のミスを速攻につなぐなどで加点、12—3とリードを奪って前半を終える。

後半に入っても釧路商の攻撃のミスから暁の速攻が決まり、さらに点差を広げる一方的な展開となってしまった。

得	〔暁〕		〔釧路商〕	得
0	内田	GK	長田	0
		GK	山本	0
0	清水	FP	北谷	0
7	渥美	FP	野口	1
2	倭	FP	稲葉	2
6	豊田	FP	大竹	1
3	岡	FP	菅井	3
1	石原	FP	藤田	1
3	野田	FP	田牧	0
0	水谷	FP	浅見	0
1	鈴木	FP	進藤	0
6	中川	FP		
29	(2)	PT	(0)	8

（審・光安・中山）

江東商（東京）26〔12—5／14—10〕15 今治北（愛媛）

〔戦評〕立ち上がり、両チーム共堅さが見られた。しかし、江東商・石原のPTを足がかりにリズムに乗り、速攻、ロングで着実に得点を重ねた。一方の今治北は、シュートは放つもののGKの好守、好ディフェンスに阻まれ、20分までなかなか得点することができなかった。

後半は、浮き足立つ今治北に対し余裕をもって攻撃する江東商の試合となり、大差でゲームが終了した。

得	〔江東商〕		〔今治北〕	得
0	山田	GK	青野	0
0	高橋	GK	白石	0
2	水井	FP	八木	7
5	永尾	FP	松原	1
7	石原	FP	村上	0
3	和久田	FP	別府	2
0	大澤	FP	古江	4
6	関	FP	崎山	0
1	山田	FP	丹下	1
0	佐藤	FP	矢野	0
1	大内	FP	岡	0
1	根本	FP	関	0
26	(3)	PT	(2)	15

（審・今井田・工藤）

華陵（山口）15〔6—1／9—12〕13 東海女（愛知）

〔戦評〕前半開始早々、両チーム共堅さが目立ち、一進一退の攻防が続く中で両GKの好守が光った。華陵・田村のカットイン、ロングなどで少しずつ得点を重ね6—1と華陵のリードで前半を終えた。

後半に入り、華陵・田村のロング、世良のカットイン、対する東海女・加藤の速攻、児島のロングなど両チーム点のとり合いとなった。残り10分過ぎ、東海女は速攻で追い上げるが、度々華陵GK阿濱の好キープに阻まれ、追いつくことはできなかった。

得	〔華陵〕		〔東海女〕	得
0	嶋	GK	山奥	0
0	阿浜	GK		
0	小林	FP	水野	1
2	世良	FP	加藤	2
4	田村	FP	本間	0
5	野田	FP	児島	2
0	面木	FP	前原	4
1	重国	FP	内山	1
3	近藤	FP	小林	3
0	若狭	FP	三浦	0
0	光谷	FP		
0	日坂	FP		
15	(1)	PT	(1)	13

（審・国府・酒井）

九州女（福岡）20〔7—7／13—12〕19 大曲農（秋田）

〔戦評〕両チーム共ミスの多い試合展開から九州女が2点を連取して試合の主導権を握った。その後も両チーム共に本来の力を発揮しきれないた前半を戦っている感じで、結局大曲農が中村の3連取で追いつき、7—7で折り返す。

後半に入り、堅さのとれた両チームは速い試合展開で一進一退の攻防を見せたが、終盤から九州女が常にリードして試合を進める。

終了間際、大曲農は激しく反撃するが、九州女がリードを守り切った。

〔大曲農〕	得		得	〔九州女〕
武藤	0	GK	0	石橋
伊藤	0		0	木村
高橋	3	FP	8	中野
千田	3		1	石橋
中村	9	〔審・板倉 岩本〕	1	戸田
高橋	0		0	勝見
梅津	0		1	鶴
細井	0		2	山川
板谷	2		0	安野
小野寺	2		0	長嶺
田村	0		7	小林
阿部	0		0	木須
(5)	19	PT	20	(5)

2回戦

名短大付（愛知） 15 〔5—6／10—5〕 11 小杉

〔戦評〕立ち上がりは名短大付がペースをつかめず、パス回しのミスから小杉が逆に速攻を出し、前半15分を過ぎて4—4の同点。そこから小杉のポストプレーなどが決まり、6—5と1点をリードして前半を終了。

後半立ち上がり、小杉の攻撃が

〔小杉〕	得		得	〔名短付〕
島倉	0	GK	0	平山
下条	1	FP	6	山田
宮脇	0	〔審・国府 酒井〕	3	飯田
梶谷	0		2	武藤
片林	0		2	鈴木
石田	0		2	加藤
島	3		0	川口
大郷	2		0	新地
川腰	2			
大前	3			
市橋	0			
(2)	11	PT	15	(4)

単調になったところを名短大付がペースを取り戻し、連続6得点をあげて、14—10と逆転。その後、小杉・島が退場になり、名短大付がサイドへうまくずらして得点、15—11で押し切った。

水海道二 12 〔8—4／4—6〕 10 夙川学院

〔戦評〕前半10分過ぎまでは水海道二が着実に加点、一方夙川学院はミスが多くなかなか得点できない。前半終了5分前に互いに加点し、8—4と水海道二のリードで前半を終る。

後半に入っても、ポストの動きをからませ、外からのシュートという攻撃のパターンは両者とも変わらず、良く似たチームカラーのせいかディフェンスも互いにつぶし合い、両チームとも得点が伸びない。淡々とした試合展開のまま水海道二が逃げ切った。

〔夙川〕	得		得	〔水海道二〕
平塚	0	GK	0	柴
伊吹	0		0	鈴木
藤原	0	FP	0	軽部
碇	1	〔審・神谷 秋山〕	0	佐藤
竹下	0		0	染谷
田淵	3		4	高橋
前田	0		2	小谷内
田口	2		4	芦ヶ谷
財田	0		0	鈴木
戸高	1		2	森
柏木	1		0	日高
巽	2		0	伊藤
(2)	10	PT	12	(2)

聖和学園 17 〔5—7／12—1〕 静岡城北（静岡）

〔戦評〕前半、立ち上がり聖和の動きが悪く、静岡城北にロングなどで4点のリードを許す。その後聖和はGKがよく守り、徐々にペースをつかみ2点差まで追い上げるが、PTが決まらず静岡城北リードのまま前半を終了。

後半に入ってすぐ聖和はフォーメーション、PTで同点とする。静岡城北は動きが悪くなり、ミスを連発して追加点がとれない。聖和はますます動きが良くなり、一方的なゲーム展開となって聖和が快勝した。

〔静岡〕	得		得	〔聖和〕
加藤	0	GK	0	庄司
瀧下	0			
川島	3	FP	0	小田嶋
柿下	0	〔審・光安 中山〕	2	目黒
山平	0		1	三嶋
柴戸	1		1	山口
青島	0		6	石垣
岩石	0		0	宍戸
萱津	1		1	佐藤
海野	3		0	沼倉
新井	0		3	藤田
加納	0		3	八重樫
(1)	8	PT	17	(3)

浦和実（埼玉） 14 〔7—6／7—7〕 13 函大女商

〔戦評〕立ち上がり、函大女商は早いパス回しからのずらしを中心にカットイン、ステップシュートで加点、浦和実にディフェンスの甘さが見られた。浦和実は両45度がフェイントからポストへ展開、10分過ぎまでなかなか得点が入らなかったが、フリースローからの得点をきっかけに函大女商のパスミスなども加わり、浦和実の1点リードで前半を終了。

後半、両チーム共連続得点で一進一退の展開となった。残り3分、函大女商はPTで同点のチャンスを得たが、阻まれ、結果的にこの1点が響いて、浦和実が辛くも1点差を守った逃げ切った。

〔函館〕	得		得	〔浦和〕
佐藤	0	GK	0	山崎
竹原	0		0	帰山
森山	4	FP	3	浅田
長谷川	2	〔審・足立 天神〕	3	岩村
桜井	0		1	小椋
岡崎	3		5	伊藤
丸山	0		1	浅子
松坂	0		1	藤原
小島	3		0	三角
三輪	1		0	鈴木
石田	0		0	竹花
平井	0		0	横山
(2)	13	PT	14	(1)

熊本女商（熊本） 25 〔12—7／13—5〕 12 小松市女

〔戦評〕開始早々から熊本女商の動きが冴え、熊本女商のペースで試合が進む。前半中盤より小松市女のフローターのシュートが決まりだしたが、熊本女商の速い動きに小松市女のディフェンスがついていけず、逆に熊本女商の攻撃がリズムを増す。

後半に入って、小松市女はディ

〔小松女〕	得		得	〔熊本〕
小前田	0	GK	0	岩本
鐘森	0		0	森崎
柳沢	0	FP	7	高州
三安	5	〔審・森 川島〕	4	森下
北村	0		4	田中
服部	0		6	鶴田
釣川	0		2	日坂
宮崎	2		0	山田
東野	3		0	白石
土田	1		2	田中
北崎	0		0	今村
大野	1		0	末金
(2)	12	PT	25	(4)

フェンスでがんばり、攻撃につなげようとするが、攻撃が単調でなかなか得点に結びつけない。残り10分あたりから互いにミスが目立ち、内容的には大味な試合となったが、熊本女商が一方的にゲームを制した。

彦根商（滋賀）14〔5－7 / 9－3〕10 暁

〔戦評〕前半立ち上がり、両チーム共堅さが目立ちなかなか得点できない。暁は豊田を中心にセンタースリーからカットイン、ロングで攻める。一方彦根商は、ダブルポストから盛んにポストにパスを通すが、得点に結びつかない。15分過ぎまで一進一退の攻防が続いたが、暁は豊田、岡の得点、またGK内田の好守で7－5と2点をリードして前半を折り返す。

後半に入り流れが一転した。全体的に動きの良くなかった彦根商は小松、森のロングシュートが見事に決まり出し、一気に逆転した。ディフェンスも良くなり、暁の反撃を押えて勝利を収めた。

〔暁〕		得
GK	内田	0
FP	清水	0
	渥美	1
	倭	0
	豊田	5
	岡	2
	石原	1
	野田	0
	水谷	0
	鈴木	0
	中川	1
PT	(0)	10

〔審・楓・渡辺〕

〔彦根〕		得
GK	山崎	0
	渡辺	0
FP	馬場	3
	向田	1
	小松	3
	森	4
	奥村	3
	福永	0
	丸山	0
	宮尾	0
	藤木	0
	富江	0
PT	(2)	14

江東商19〔12－6 / 7－10〕16華陵

〔戦評〕前半、江東商の永尾、石原のロングシュートが連続して決まり、また江東商のディフェンスの動きが良く、華陵のミスから速攻で得点するケースが多く、開始から江東商は6連続得点をあげる。華陵も田村、小林ががんばり、その後一進一退の展開となるが、12－6で前半を折り返す。

後半も立ち上がり江東商が3連続得点をあげるが、5分過ぎから華陵の反撃が始まり、3点差まで詰め寄ったが、およばなかった。

〔華陵〕		得
GK	嶋	0
	阿浜	0
FP	小林	2
	世良	7
	田村	7
	野田	0
	面木	0
	重国	0
	近藤	0
	若狭	0
	光谷	0
	日坂	0
PT	(1)	16

〔審・光安・中山〕

〔江東商〕		得
GK	山田	0
	高橋	0
FP	水井	1
	永尾	9
	石原	6
	和久田	1
	関	2
	山田	0
	佐藤	0
	大内	0
	根本	0
	遠山	0
PT	(0)	19

宣真（大阪）26〔15－4 / 11－7〕11九州女

〔戦評〕九州女は中野、小林がきっかけをつくり攻め込もうとするが、宣真の堅いディフェンスに阻まれ、なかなか得点できない。宣真は木口のロングシュートを中心に相手のミスやパスカットなどからの速攻で着実にポイントを重ねる。

後半に入り、九州女の粘りからの巻き返しを期待したが、前半の大量の得点差が響き、宣真が勝利を収めた。

〔九州女〕		得
GK	石橋	0
	木村	0
FP	中野	4
	石橋	1
	戸田	0
	勝見	0
	鶴	1
	山川	1
	安野	1
	長嶺	0
	小林	3
	木須	0
PT	(0)	11

〔審・太田・細沢〕

〔宣真〕		得
GK	上田	0
	進藤	0
FP	稲次	6
	木口	7
	荒川	5
	水田	0
	関	2
	中里	5
	大串	0
	小野	0
	橋本	1
	大舘	0
PT	(9)	26

3回戦

名短大付17〔4－6 / 13－5〕11水海道二

〔戦評〕開始から水海道二が高橋、小谷内らの活躍で常にリードする展開となる。名短大付もパス回しからフェイントを駆使してディフェンスを壊しにかかるが、得点チャンスにシュートがなかなか決められず苦戦を強いられる。その後両チーム共得点できずに展開。

後半開始直後追いついた名短大付が本来のペースを取り戻し、水海道二を引き離しにかかる。水海道二も反撃を試みるが、名短大付の固い守りに及ばなかった。

〔水海道二〕		得
GK	柴	0
	鈴木	0
FP	軽部	0
	佐藤	0
	染谷	0
	高橋	4
	小谷内	5
	芦ヶ谷	1
	鈴木	0
	森	1
	日高	0
	猪瀬	0
PT	(3)	11

〔審・光安・中山〕

〔名短付〕		得
GK	平山	0
FP	山田	6
	飯田	4
	武藤	3
	鈴木	1
	加藤	0
	川口	3
	新地	0
PT	(1)	17

聖和学園16〔11－8 / 5－7〕15浦和実

〔戦評〕立ち上がりから石垣の豪快なロングシュートがビシビシと決まり、八重樫のカットインも冴える聖和が一歩リード、これに対し浦和実もカットインしては短いパスをつなぎ、要所で岩村が打ち込んで追いかける。

息づまる熱戦であったが、浦和実が数回のパワープレーに思うように加点できなかったのが痛かった。残り20秒、1点差を追って浦和実のマンツーマン・ディフェンス。4秒でマイボールとなったが、時すでに遅かった。

〔浦和〕		得
GK	山崎	0
	帰山	0
FP	浅田	1
	岩村	4
	小椋	2
	伊藤	4
	浅子	1
	藤原	0
	三角	2
	鈴木	0
	竹花	0
	横山	1
PT	(0)	15

〔審・板倉・岩本〕

〔聖和〕		得
GK	庄司	0
	今内	0
FP	小田嶋	0
	目黒	1
	三嶋	2
	山口	1
	石垣	7
	宍戸	0
	佐藤	0
	沼倉	0
	藤田	1
	八重樫	4
PT	(0)	16

熊本女商20〔10－9 / 10－9〕18彦根商

〔戦評〕両チーム共によく攻め、よく守り、一進一退のシーソーゲームとなったが、10－9と熊本女

商が1点をリードして前半を終了した。

後半5分に彦根商がいったんは逆転に成功したものの、熊本女商もGKの好守から再び流れをつかみ、連続7ゴールをあげて試合を決めた。

得	〔彦根〕		〔熊本〕	得
0	山崎	GK	岩本	0
0	渡辺	GK	森崎	0
2	馬場	FP	高州	2
4	向田	FP	森下	3
2	小松	FP	田中	6
5	森	FP	鶴田	4
3	奥村	FP	日坂	3
1	福永	FP	山田	0
0	丸山	FP	白石	0
0	宮尾	FP	田中	2
0	藤木	FP	今村	0
1	田中	FP	末金	0
18	(1)	PT	(3)	20

（審・国府 酒井）


宣真・関選手

宣真20〔9—6 11—8〕14江東商

〔戦評〕立ち上がり、江東商・永尾のロングシュートを中心に攻め込む。それに対し宣真はスピードある動きと速いパス回しからロング、ポストをねらい、一進一退の展開となった。15分過ぎてから宣真はPTの得点をきっかけに連続5得点をあげ宣真リードで前半を終了。

後半、江東商のディフェンスは宣真・木口のスピードに乗ったシュートとタイミングをはずすロングシュートに苦しめられ、さらに単調なパス回しがミスやパスカットにつながり、立て続けに速攻にあいリードを広げられる。江東商は石原のロングシュート、PTで追い上げるが及ばなかった。

得	〔江東商〕		〔宣真〕	得
0	山田	GK	上田	0
0	高橋	GK	進藤	0
0	水井	FP	稲次	6
3	永尾	FP	木口	7
8	石原	FP	荒川	3
1	和久田	FP	水田	1
1	関	FP	関	1
1	山田	FP	中里	2
0	佐藤	FP	大串	0
0	大内	FP	小野	0
0	根本	FP	橋本	0
0	遠山	FP	大舘	0
14	(5)	PT	(3)	20

（審・森 川島）

準決勝

名短大付13〔8—7 5—4〕11聖和学園

〔戦評〕石垣のロングを中心にセット攻撃を展開する聖和学園に対し、名短大付は相手ミスからの速攻、武藤のサイドシュートなどで対抗し互角の展開となる。15分過ぎから両チーム共攻めあぐむ場面が多くなったが、前半終了直前、名短大付は飯田がロングシュートを決め1点リードを奪う。

後半も全く互角の攻防が続くが18分過ぎ名短大付が聖和退場のチャンスをつかみ、山田の速攻で3点をリード、そのまま逃げ切った。

得	〔聖和〕		〔名短付〕	得
0	庄司	GK	平山	0
0	今内	GK		
0	小田嶋	FP	山田	4
0	目黒	FP	飯田	2
2	三嶋	FP	武藤	3
0	山口	FP	鈴木	1
8	石垣	FP	加藤	2
0	宍戸	FP	川口	1
0	佐藤	FP	新地	0
0	沼倉	FP		
0	藤田	FP		
1	八重樫	FP		
11	(3)	PT	(0)	13

（審・秋永 前川）

宣真26〔13—9 13—8〕17熊本女商

〔戦評〕立ち上がり熊本女商が2点を連取、幸先の良いスタートを切る。一方宣真は、木口、稲沢のロングで反撃し、4点を連取して逆転。その後熊本女商も追いつき熱のこもったゲーム展開となる。主導権を握ったのは宣真で、木口のロングがおもしろいように決まり出し、常にリードしてゲームを進める。

後半も流れは宣真。熊本女商も速いパスワークからディフェンスの間を割る攻撃で必死に応戦。しかしながら、流れをそう簡単には止められず、宣真が木口のロングはもちろん、速攻などでも着実に加点、熊本女商を押し切った。

得	〔熊本〕		〔宣真〕	得
0	岩本	GK	上田	0
0	森崎	GK	進藤	0
2	高州	FP	稲次	5
1	森下	FP	木口	12
5	田中	FP	荒川	2
6	鶴田	FP	水田	1
1	日坂	FP	関	1
0	山田	FP	中里	5
0	白石	FP	大串	0
2	田中	FP	小野	0
0	今村	FP	橋本	0
0	末金	FP	大舘	0
17	(5)	PT	(4)	26

（審・神谷 秋山）

決勝

宣真12〔7—5 5—6〕11名短大付

〔戦評〕開始直後、名短大付が山田のロングで先制するが、この後宣真の固い守りに阻まれ得点できない。一方宣真もリズムに乗れず苦戦を強いられる。しかし、中盤に入りペースをつかんだ宣真は着実に加点していき、7—5と2点をリードして前半を折り返す。

後半に入り、必死の追い上げを見せる名短大付であるが、シュートミスが多くなかなか追いつけない。一方宣真もシュートミスを連発し、名短大付を引き離すことができない。その後、後半22分に名短大付が逆転、宣真はすぐに同点とした後、残り2秒でPTを得、木口が確実に得点、12—11で宣真が優勝を飾った。

得	〔名短付〕		〔宣真〕	得
0	平山	GK	上田	0
		GK	進藤	0
7	山田	FP	稲次	3
1	飯田	FP	木口	6
2	武藤	FP	荒川	0
0	鈴木	FP	水田	0
1	加藤	FP	関	0
0	川口	FP	中里	2
0	新地	FP	大串	0
		FP	小野	0
		FP	橋本	1
		FP	大舘	0
11	(3)	PT	(1)	12

（審・酒井 国府）

攻撃側の反則についてその適用と統一的見解の分析と勧告

イストヴァン・マダラス（ハンガリー）
ＩＨＦ／ＭＣ医事委員長

すべてのスポーツは、歴史的に見ればその伝統にまつわるプラス面、マイナス面があり、独特な性質もあり、そしてまた将来への展望としての基本的計画構想を持っている。ハンドボールの持つ体育的価値は素晴らしいものがあり、近来の急速な発展とわかりやすさという人気は、この点に負うところが大きいといえる。

ハンドボールが示す特徴的要点として、次のことがあげられる。走・跳・投を基本的な動きとする闘争的なゲームであることと、攻防の両面にわたる技術的戦術的に多種多様な突然変化に応じる能力と柔軟融通性が求められるスポーツである。

これらの素晴らしい長所は、今後もなお保護・育成・維持に努めるべきである。ボールを持っていても、そうでなくても、攻防間の闘争は見ていて値打ちがあり、かつまた豊かな創造性も認められる。身体と身体のぶつかり合い状態は強烈で変化性に富む攻撃法であり、それに対する激しい攻撃的な防御法の応酬は広範囲の幅と深さにわたって展開され、ハンドボールが魅力的で近代的なものと性格づけられている所以である。

この競技が持つリズムとダイナミックさと試合そのものの魅力は、攻撃・防御双方のめまぐるしい動きによりもたらされるものである。これらの重要な前提条件と特徴、あるいはそれに対する反論・矛盾点については以下に述べる基本テーマに含まれる。

① 攻撃と防御は柔軟融通的なバランスを保つべきである。

② 攻撃と防御の内容は、必ずしも並行的に進歩しない。

③ 試合の中の行動の目的や仕事は、不断に変化するものであり、攻撃側は得点をとろうとする。防御側はそれを阻止しようとする。この目的の追求について両チームはルールに規定された「相手に対する」動作の枠内で実現することができる。

④ 身体的能力とその熟練度を実際に発揮するのはコート全面においてである。

○基本的なポジションに立って
○それぞれの動きの中で
○すべての方向に対して

ボール保持であると否とを問わず、相手に対しては、攻撃でなくルールに定められた動作だけが許される。コートのある地点で相手より早く位置を占めたプレイヤーは、そこで優先性を認められる。

⑤ ルールというものは、攻撃側にとっても防御側にとっても、同等の判断基準で取り扱うべきである。ルールの一貫性ある適用は、激しさの適正な限度まで認められている。

⑥ プレイヤーは、そのプレーの過程で意図的または不作為的に反則を犯す。一般的に攻撃側も防御側も同様であるが、熟練したプレイヤーが攻撃または防御の陣型内の特定ポジションにいると、そこで特徴的な反則が起こる。

⑦ いわゆる攻撃側の反則が、攻撃側にとっては明らかに重大問題である。それではどのように定義づけられたら良いであろうか？

理論的に短く表現すれば、

攻撃側の反則とは、相手に対してルールに反したすべての行為でどんな状態のもとでも力まかせにゴールをねわおうとすることの総称である。

正しい知識とそれに加えて明かな統一的判定は実地の場で一層明確化する。次に示すスライドでプレー中に起こる大多数の典型的例を示す試合状況を見ることができる。これらのスティール写真は、この後のプレーがどうなるかとか、プレイヤー相互の接触状態やその影響とかについては示していないが問題となる瞬間を明らかにしており、理解認識に役立っている。

ルールの中で、判定についての諸問題の内、攻撃側の反則がいかに重要であることか。トレーナー、レフェリー、プレイヤーのそれぞれ10人に対して次のように質問をしてみた。

ルールが最高に精密に判定運用されていると思うかと。

次の図（省略）は、その結果と意見の相違状態を示すものである。

ＩＨＦ／ＰＲＣの管理のもとで、オリンピック大会に参加し、毎日のレフェリー活動を評価査定する専門家がいる。そこで私は、ほとんどのレフェリーを観察し、異議申し立て対象となったレフェリーのエラーを分析記録した。その結果は図にある通りである。

この両資料のまとめにより、実地的応用についてのいろいろな結果の裏づけを得た。試合中の具体的な瞬間で10回にもわたって攻撃側の反則が現実にルール適用についての紛争の原因となっていることがわかりやすく理解できる。

次にあげる写真を見られたい（省略）。何も言葉をはさまないが、私が今まで述べたばかりの諸点を念頭においた上で見てほしい。すべての事例が明らかにレフェリーがルール適用に精通していなかったことが原因となっていると思われる。

一方のチームは、あれは当然攻撃側の反則である。そして他方は、それに対抗して防御側の反則であると苦情を述べるが、レフェリーは判定を下すどころか、そのまま試合を続行させる場面が頻々に繰り返し見られることは注意を要する。特に「攻撃側の反則」から「７ｍスロー」となってしまうような極端な判定の大きな相違に立ちいたっては、到底受け入れられ

いことである。

攻撃側の反則が7mスローと判定されてしまったが、実際は攻撃側の反則であるというような異なったルール解釈には、到底ついていけないことは、誰しも確信を持っていえることである。このような次第で、私の考えていることを基として、義務感を持ってこのテーマの綿密な解明に取り組んでみたい。

ＩＨＦ／ＰＲＣと世界各国の審判部長諸氏は、この問題がハンドボール界で依然として中心的論争点であり、また、これが緊急問題である以上は、議事日程からはずしたり、引っ込めたりはできないであろう。さらにこれは、コーチにとってもこの件について、明確精細な形で表現された指示事項を手に入れることの有利さでは絶対不可欠であり、これを基にして自分自身で努力勉強ができて、ここではじめて統一的見解への到達が実現するのである。

次に攻撃側の反則の専門的分析に移る。今まで多くの経験の中から、ハンドボール界の最大のイベントであるオリンピック大会、世界選手権大会、ヨーロッパカップ大会で取材した資料に基づいて、とりあえずこのテーマを3つに区別することにする。

(a) ボールなしでの攻撃側の反則

(b) ボールを持った上での攻撃側の反則

(c) 攻撃側の反則と判定できない状況

このまとめリストは、単に反則の型についての全体の説明描写であり、これをどのような順序で論議するかの提案に過ぎない。このリストに記された順序がことの重要性の順位を表わすものと考えないように願う。

(a) ボールを持たない攻撃側のプレイヤーの反則は無視できない問題である。このことにレフェリーが気づかなかったり、罰を下すことがないままに放置されている。その理由は、レフェリーがボールを中心とした活動に過大な注意を向けているからである。この種のケースは3つのタイプに分けることができる。

① 相手に対する通常の反則

ルール8―4、5、6、7、10、11に規定されている、オブストラクション、プッシング、ヒッティング、ホルディング、手足でのプッシングなど。

② ゴールエリア前にいるプレイヤーによる反則

プッシング、守りにつこうとしている防御側プレイヤーを引っ張る、ゴールエリア内に押しこむ。

③ ボールにプレーしたり、シュートした後に、手、腕、身体で、防御側プレイヤーに危険を及ぼすこと（空中でもコート上でも同様である）。

(b) ボールを持っているプレイヤーの反則――ビデオ参照――

まず、どのような反則があるかという点に注目して、攻撃側の反則の例を見よう。そして次には、実際の試合でのシュートの場面を見よう（ビデオ）。

以上簡単ではあるが、レフェリーが罰したか否かは別として、頻繁に生じている攻撃側の反則の典型的タイプを見てきた。

(c) 攻撃側の反則とすべきではない動きのタイプについては、もっと論議すべきであろう。これらは、はっきりと2つのグループに分けられる。全く正当な動きか、それとも防御側の反則のどちらかである。

① 正当な動き

トップ・プレイヤーとして最も価値ある資質は、ボディ・コンタクトをうまく使えるかどうかということである。すなわち、位置どりや、結果的に生じる衝突や、相手にプレッシャーをかける時である。さまざまな状況の中で絶えまないボディコンタクトは、どんな場合でも、しっかりと見極めなければならない。

このボディコンタクトの正当性のぎりぎりのケースがルール上に認められている衝突である。この種の衝突は、常に場所やポジションを変えている時の双方の対等の攻防状態で生じるものであり、コート全面で相手に対する動作に関するルールに従って行なわれるべきものである。

我々は、正当な動きのための技術用語として「衝突」という言葉を使っている。この「衝突」は、身体と身体の接触だけではなく、腕や脚の動きをも含む。さらに、明らかな妨害の意図さえなければ、相手の身体にタッチできる範囲までも含む。それゆえ、体重・身長・体力・闘志・精神力の異なるさまざまなプレイヤーが相対している試合では、すべてのプレイヤーのため同一の条件を設定することがレフェリーの義務となる。この状況を判断することは、動きがダイナミックなものになるほど困難さを増す。特に、プレイヤーが空中でぶつかるような時は難しい。

前述したように、「衝突」は攻撃側によって生じたものなのか、または防御側が相手のスローやシュートのタイミングを遅らせたり、妨害する手段として行なわれたものかを問わず有効正当である。攻撃における接近、突破、攻撃の組立は一般的に見て、「衝突」で阻止可能である。すべての場面で正当な動きを認めていくことが大切である。さもなければ、ハンドボールの試合は、道徳的な基準づくりに追いまわされることになってしまうか、またはプレイヤーが目的達成のために、背に腹はかえられないといった反則をする状態になってしまう。

2．防御側プレイヤーによる反則のケース

―ゴールに向かって突進してくる攻撃側プレイヤーの腕を防御側プレイヤーが摑んでいる場合

―防御側プレイヤーが味方のプレイヤーを押して相手プレイヤーにぶっつけている場合

―ゴールエリア内に位置をとっている防御プレイヤーに攻撃プレイヤーが突き当たっている場合（7mスロー）

―ジャンプシュートのためゴールエリアとの空間にある攻撃側プレイヤーに対して、防御側プレイヤーがゴールエリアを走り抜けて妨害している場合

―攻撃側プレイヤーに接触したり、衝突した時に、防御側プレイヤーが押されたふりをしてコート上におおげさに倒れてしまう場合

レフェリーは、さまざまな形で起こる攻撃側の反則に対して、罰則を適用することができる。

攻撃側プレイヤーの反則の進行過程は、次のようにとらえられるであろう。

(a) 防御側が攻撃側プレイヤーの意図を予測し、その結果攻撃側の反則がやむを得ず生じてしま

った。攻撃側プレイヤーの行為は、偶然のこととして扱われ、これは通常の反則として、フリースローで罰するのが適当。

(b) 防御側プレイヤーによってうまく挑発されてしまった攻撃側の反則も同様に扱うべきである。たとえば、防御側が自陣へ戻りながらの状態で、充分な態勢がとれていない時に素早い速攻が、展開する場面がしばしば見られるが、この時攻撃側プレイヤーが、目の前にいる相手プレイヤーに注意を払うことなく突き当たってしまう場合。

(c) 攻撃側プレイヤーが自分の意図通りにプレーできずに苦境に立ってしまって反則を犯した。フェイントプレーや、3歩3秒内での動きの勢い余ってしまったり、バランスを保てなくなって転倒したり、相手プレイヤーにジャンプした状態か、または走りながら突き当たってしまう。これも、フリースローで罰するのが妥当であるが、必要によっては攻撃側プレイヤーに警告が与えられて良い。

(d) 攻撃側プレイヤーが、粗暴行為をしたり、防御側の戦術を無視したり、相手に対する影響や結果を考えない行為をするなどといった、粗暴で意図的な反則には罰則が適用されなければならない。

攻撃側の反則は、ルールブックのジェスチュアの掲載されている通り、明確に示さなければならないことにも留意すべきである。

終りにのぞんで、攻撃側の反則を正しく見極めることの責任と重要性について述べる。今まで述べてきたように、攻撃側の反則を確実に判定することが、ハンドボールの発展にとって盛衰にかかわる問題であることはいうまでもない。レフェリーには、重大な責任があり、次の諸点を絶えず心の中に留めておかなければならない。

◇もしレフェリーが判定するに当たって、正しい位置をとっているならば、動きを正確に追跡することについて、すでに充分である。センターレフェリーは、基本的な動きを見極めることができる視野を保つに便利な位置をとる。しかし、ゴールレフェリーは不便な位置にいるので、特定の状況のもとで攻撃側の反則を見つけるしかない。

◇試合についての理論的、実践的な考え方を持つことは基本である。攻撃側の反則は、それ自体が孤立した行動ではなく、むしろ、それは試合の全体的構成要素である。したがって、ゾーンディフェンスでの攻撃側の反則と、動きの激しい集中的なマンツーマンディフェンスのそれとは違いがある。

◇戦術的コンビネーションが増々スピード化して、高度な技術によって展開されている。試合の動きは、攻撃側の反則を必然不可避のものとし、興奮度は極限に達している状態の中で、実態を確実に把握し、評価を下し、正しい判定を下すことが、非常に困難なものになりつつある。

◇見逃された攻撃側の反則は、往々にして試合全体に強い衝撃を与え、それが引き金となってルール違反は、防御側の粗暴行為となって現れる。これが、ハンドボールの退廃につながる。

◇レフェリーのミスジャッジを起こす頻度は、攻撃側の反則の明らかな見落としによって、より高いものとなっていく。これを見落とすことによって、必然的に起こる防御側の行為が、ホールディングやゴールエリア内防御となって現れ、罰せられてしまうことになるのである。

◇コーチとプレイヤーは、勝つためのプレッシャー意識に違いがあり、必ずしも、良いパートナーであるとは限らず、考え方にも相違がある。プレイヤーは常に自分の能力に相応しいプレーを心がけ、レフェリーに認められるプレーをしようとする。もし、レフェリーが誤まった判定を下したならば、それまでにわだかまっていた紛糾的要素は、レフェリーへの攻撃的態度となって現れるであろう。

◇攻撃側の反則に対する誤った、矛盾した考え方は、本来の攻防プレイヤーの魅力ある戦いを不可能にしてしまう。このことによって、ファンやマスコミは失望し、さらには、厳しい批判の目を向けるようになるのである。

我が親愛なるハンドボール愛好者の皆さん！

私は、攻撃側の反則を解明するため、話を進め、ビデオで示してきたが、私のねらいはおわかりいただけたと思う。

皆さんが、大きな関心を持ってハンドボールの発展にかかわっているのみならず、皆さんがそれぞれのレベルでベストを尽くしていることを固く信じて疑わない。皆さんはルールを正しく解釈・適用した上で、名人芸ともいえるほどの試合実施を保証すべき義務を負っている。

皆さんの今後の努力により、成功を切望して、この稿を終わる。

御静聴を感謝する

イストヴァン・マダラス

"小さな掛金、大きな補償"でおなじみの

900万人の保険



スポーツ安全保険

が4月からかわります。一層有利になりました。

主な改定

★ 加入区分、掛金が改められました。
★ 死亡・後遺障害が最高1,400万円に増額され、入院通院日額も引き上げられました。
★ 補償の対象になる治療日数が「4日以上」に短縮されました。
★ 賠償責任保険の補償限度額が1億円に増額されました。
★ 心蔵マヒなどの突然死等に対し見舞金が支払われることになりました。

5人以上のグループでこの保険に加入できます。

区分			掛金（1人年額）	傷害保険（保険金額） 死亡・後遺障害	入院	通院	賠償責任保険（補償限度額）	共済見舞金
1種	A	■スポーツ少年団、子ども会など中学生以下のグループ ■成人の文化活動、社会奉仕活動のグループ	360円	最高 1,400万円	1日につき 4,000円	1日につき 1,300円	対人賠償 1億円（自己負担1,000円） 対物賠償 500万円（自己負担1,000円）	突然死および日射病熱射病による死亡 50万円
1種	B	老人クラブ団体 ■団体員がおゝむね60歳以上の人により構成された団体（例）ゲートボールクラブ、ハイキングクラブなど	500円	400万円	1,800円	800円		
1種	C	■ママさんバレーなどの地域スポーツのグループ ■高校の運動部、大学、会社などのスポーツ同好会 ■一定の資格のある指導者のグループ	1,100円	1,400万円	4,000円	1,300円		
2種	A	■大学の運動部、実業団のチーム	1,450円					
2種	B	■難度の高いスポーツをする大学の運動部、実業団のチーム	5,750円					
3種		■とくに難度の高いスポーツをするグループ	9,900円	400万円	1,800円	800円		

対象となる事故　■グループ活動中の事故　■往復途上の事故

保険期間　平成2年4月1日より翌年3月31日まで（申込受付は3月から）

加入申し込み、資料の請求、お問合わせ

スポーツ安全協会各都道府県支部（主として教育委員会保健体育課および体育協会）、もよりの東京海上火災保険㈱の営業店にご照会ください。

（財）スポーツ安全協会

東京都渋谷区神南1-1-1岸記念体育会館 TEL（03）481-2431（代表）

若い選手に〝強引さ〟を望む

～男子世界選手権を見て～

渡邊 佳英
（日本チーム団長）

親子二代にわたる団長

私は2月28日から3月10までチェコスロバキアで開かれた第12回世界男子ハンドボール選手権大会の日本チーム団長に選ばれ、責任の重大さをひしひしと感じました。しかも、26年前（昭和39年）に同じくチェコスロバキアでの世界男子選手権大会には亡父（渡邊和美）が日本チームの団長を務めているので、親子二代にわたっての団長は奇しき因縁と言わざるを得ない。

父は、予選リーグのノルウェー戦で日本初勝利の喜びを体験しているので、私も父と同じように勝利を確信していました。残念ながら日本は予選リーグでの勝利は望めませんでした。その意味で、私は父をしのぐことはできなかったのが心残りでした。私は所用のため、世界選手権大会前のスイス遠征に同行できず、世界選手権大会だけ参加させてもらった。チームの諸君に少なからずご迷惑をかけたことを申し訳なく思っている。

速攻・遅攻の併用がカギ

私は大会期間中、世界トップクラスの10試合を観戦し、大いに学ぶところがありました。また、欧州チームと日本チームとの力の差をまざまざと見せつけられ、発奮せざるを得ない立場に追い込まれたのは事実でした。

私が見る限り、日本チームはキャリア不足、経験不足が目につき、スピードはあるものの正確さに欠けていたことは否めません。世界選手権大会というヒノキ舞台で日ごろの力量を発揮するためには、常に欧州チームとの交流で技術を磨き上げておかないと太刀打ちできないことを痛感しました。

ＩＨＦ、各国チームのスタッフは「欧州チームは日本のスピードを完全にマスターした。そして速攻・遅攻の併用が大きなカギである。これがなければ、世界選手権大会およびオリンピックでの勝利はおぼつかない」と話していた。私は、まさにその通りだと思う。

相手の目を見てパスを

欧州チームで目立ったことは、ボールに対する執着心が異常に強い。と同時に、強引さがあった。日本の選手は、この二つが欠けている。日本選手はボールを持っても攻めない。パスをするにしても相手（ディフェンス）の動き、そして相手の目を見ず、同僚にパスすることだけを考えているように見受けられた。



相手の目を見ないことは「日本は攻めてきない」ことを察知されて相手に余裕を持たせ、ディフェンスを固めさせる因となってしまう。これでは、いくら日本チームにスピードがあっても攻め込めないと思う。スピードと正確さ。これがないと、世界に通用しないと思う。私は、これからの若い選手にスピード、正確さはもちろんだが、〝強引さ〟を要求したい。これがないと、世界の上位に食い込むことら不可能であろう。

三者一体でムードづくり

決勝のスウェーデン対ソ連は役員、選手、観衆が三者一体となって大会を盛り上げ、私はこの素晴らしいムードに酔った。勝ち負けは別として、私はこのムードを大切にしたいと思う。

日本国内でも、こうしたムードをつくれば、ハンドボールは必ず発展すると確信している。日本も一日も早くこうありたいと願ってやまない。

参加選手の感想から

河原　隆雅

全日本選手として活動し、国際試合をこれまでに、何試合か対戦してきましたが、世界選手権という大きな大会に出場し、改めて世界の壁の厚さが身にしみた。

今大会に出場する前にも、スイスナショナルと練習試合をしたり、オランダカップでもヨーロッパ（東ドイツ、ポーランド）の国々とも試合をし、体格の差を試合の中で身をもって確め、本大会に出場したのですが、結果としては16チーム中15位で、内容としては、リズムが良い時は得点もとれディフェンスでも良く守れているのですが、リズムが崩れると連続得点されてしまいます。ソビエト戦や東ドイツ戦でもわかるように、前半良ければ後半崩れ、前半悪ければ後半が良いというようにリズムの波が大きいので、その点を今後の練習によってペースが悪い時にどのようにして建て直し、より長く日本ペースで試合を運べるかを練習しなければなりません。自分自身としても、より多くの試合に出場し、チームに貢献できるよう頑張ろうと思っていましたが、与えられたチャンスに自分のプレーがあまり出せず、今後もっとパワー、スピード、フェイント力を強化し、平常心で試合ができるように頑張っていきたいと思います。

矢内　浩

第12回世界選手権を振り返って見ると、自分たちの力を発揮することができずに大会を終了した。

チームとして、国内でやるべきことを済ませ、スイスで3ゲーム試合を行ない本大会に臨んだ結果15位で、これまでの大会の中では最悪の順位であった。

OFで得点が長い間とれず、相手に連続得点されるケースが多かった。シュートまで行きながら、決めることができず相手の速攻で得点される悪いパターンのゲームが多すぎた。

また、東独戦の後半やソ連戦の前半のように、自分たちの力を発揮できれば、十分に世界のトップのチームにも勝つ力を持っていると思う。今後は、どのような大会でも平常心で自分のプレーが出せる精神面の強い選手、チームにしなければ、また、同じ反省を繰り返すことになる。オリンピック予選では、韓国、中国、クウェートなどき勝つことが最大の目標。目標に向かって努力するのが選手の義務と責任だと思う。

宮下　和広

今大会は、オリンピックの切符を獲得するということで、プレッシャーもあったが、とにかく悔いの残らぬようにと頭に叩き込み大会に臨んだ。

大会に入り、自分たちの状態がちぐはぐで、一試合持続できずに予選リーグを終えてしまった。いろいろな理由はあるにしても、集中力が一試合持続できなかったことが課題だと思うし、点が取れない時間が長ければ長いほど、チームの状態は悪くなってしまった。

世界選手権ともなると、その一瞬を見逃さずに攻められ点差が開いてしまうことになる。

今後は、その辺のメンタル的なトレーニングを特に心掛けて、精神的にも強くなり、たとえそれがミスになろうとも、自信を持ちプレーをしていかなければいけないと思う。

首藤　信一

今大会を終えて感じたことは、チームのリズムが悪い時に、各自が平常心でプレーしながら日頃の練習の成果をいかにして出すかが大事であり、そのことによって悪いリズムを打破できるのではないかということです。

今大会のチームは、一度リズムを崩すと立ち直ることができず、30分間を使い切ってしまう形になってしまいました。

これを直して行くには、日頃の練習で形ばかり追って、すぐに結果を出そうとする姿勢を考え直し、基本プレーを大切にし、仮定を大事にすることによって、ディフェンス体型に惑わされず、相手に対応できるようになるものだと思います。

その上でシュートを狙うことに貪欲になり、各自が相手ディフェンスの弱点を指摘し、言い合いながらプレーしていかなければならないと思います。

個人的なことでは、大事な試合をカゼで休んでしまったので、健康管理にもこれまで以上に注意し気をつけて行きたいと考えています。

技術的には、センターに入った時の動き方やリードの仕方をチームに帰っても練習し、勉強して行きたいと考えています。

魚住　和彦

初めての海外遠征で、日本では知ることのできないいろいろなこ

とが勉強できた。

一つは、日本と外国の違いが体格の差だけではなかったことである。確かに今回対戦したキューバなどは、それが大きかったと思うが、上位チームはプラスアルファーがあったのである。それは、ボールに対する集中力であり、相手に対する闘争心であった。

たとえば、キーパーが自分のミスで得点されるとする。するとキーパーは、本当に悔しそうな表情を身体全体で現わすのである。このような姿を見ていると、1点の重みというものが観ている者にさえ伝わってくる。この面が日本にないというわけではない。少ないのである。だから、悔しさや喜びを身体で表現してもいいのではないかと思った。

二つめは、ハンドボールに対する熱の入れようである。決勝戦の観衆、そして騒音ともいえる応援、本当にハンドボールをやっているのかと、錯覚しそうなくらいすごいものがあった。このような、周囲の環境という面においても違いを感じた。

他にもまだ練習の違いなど、いろいろなことが勉強になったが、これらのことが、これからハンドボールを続けていく上で、プラスになったことは確実である。また、生かして行きたいと思う。

酒巻　清治

昨年のオランダカップ、今年に入って1、2月の国内合宿でかなりチーム自体にも勢いがついてきていましたし、私個人にとっても初めての世界大会で、予選リーグの対戦相手は強豪揃いでかなり厳しいのはわかっていましたが、胸が高鳴るのも事実でした。

2月20日に出発し、チェコに入る前にスイスで直前合宿を行ないました。スイスナショナルと公式には2試合、練習ゲームを1試合こなしましたが、最終引き分けるなど、良いムードで本大会を迎えました。

しかし、予選リーグ緒戦の東独戦の前半滑り出しでつまづき、後半一時盛り返したものの結果4点差で負け、ソ連戦においては前半脅威的な攻防をしたものの、後半2得点だけと前後半で明暗が分かれる波のあるゲーム展開でした。3戦目は準決勝リーグ進出には負けられないポーランド戦、前半は1点負けで折り返しましたが、後半ポスト、カットインと徐々に差を拡げられ、予選リーグ3敗を喫しました。

ソウル・オリンピックの雪辱を晴らそうと臨んだ世界選手権でしたが、なかなか思い通りにならず苦しい試合が続きました。

ヨーロッパのチームをみてみると、その国の主力選手が外国リーグで活躍し本大会前哨戦となる各国で行なわれるさまざまなカップに参加し、調整してくるチームも少なくなく、本大会にはお互い手の内を知りつくしたうえで出場してきます。日本チームにとってこれは不利な条件で、この部分を別な部分でどのようにフォローするかが一つの課題でもあると思います。

甲斐　章義

この世界選手権に向けて国内で、そしてスイスで合宿を組んで、外人に対する攻防の練習をくり返してきました。後は今まで練習でやってきたことを試合でそのまま出すだけでした。

26日チェコに入り、28日からの東ドイツ戦を控え、みんなも自分自身も体調は万全でした。しかし、大会に入ってから大観衆の声援と気持ちの高ぶりが平常心を失わせ、いつものプレーが出ていないようだった。この大舞台でいつものプレーをするということは、ミーティングでスタッフやドクターが言われた無欲、無心になれということと尽きると思う。実際、ソ連戦の前半、東ドイツ戦の後半など、スターティング・メンバーの方々が無我無中でプレーしていた時間帯は、互角あるいは互角以上の展開ができていました。

この大会は特に立ち上がりが悪く、日本のリズムに乗るのに時間がかかりすぎるというゲームが多かったように思います。強いチームは常に自分たちのリズムでゲームを運んでいましたし、何よりもボールに対する執着心や闘争心は目を見張るものがありました。

オリンピックよりも大きな大会ともいえるこの世界選手権の大舞台で、日本は良い面も悪い面もさらけ出してきたように思います。自分自身も技術的なもの、メンタル的なもの、あらゆる面でこの世界選手権は学ぶものが多かったです。

バルセロナを目指す全日本男女を応援しよう!!

広島市で第5回アジア選手権兼バルセロナ・オリンピック大会予選を開催

1991年8月21日〜9月1日

各地の記録から・・・

東北

第17回青森県社会人選手権

（12月2、3日／七戸町体育館）

〈男子〉

▼1回戦

海自二空　31－15　北里大

青森ク　30－20　七戸ユニオンB

野辺地クB　35－10　海自大湊

▼2回戦

野辺地クA　28－11　海自二空

七戸ユニオンA　28－21　弘前大

青森ク　不戦勝　陸自青森

野辺地クB　18－15　青商ク

▼準決勝

野辺地クA　25－18　七戸ユニオンA

青森ク　31－26　野辺地クB

▼決勝

野辺地クA　29（17－12、22－11）23　青森ク

〈女子〉

▼リーグ戦

野辺地ク　27－4　七戸ク

あすなろク　28－5　七戸ク

あすなろク　21－16　野辺地ク

〔順位〕①あすなろク②野辺地ク③七戸クラブ

関東

千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月18、19日／出光石油体育館）

▼1部リーグ戦

出光千葉　31－21　三井石化

三井石化　33－17　日産石化

コスモ石油　41－20　日産石化

海自下総　30－23　三井石化

出光千葉　23－22　海自下総

コスモ石油　25－18　三井石化

出光千葉　21－20　コスモ石油

海自下総　35－21　日産石化

出光千葉　28－16　日産石化

海自下総　29－21　コスモ石油

〔順位〕①出光千葉②海自下総③コスモ石油④三井石化⑤日産石化

千葉県高校新人大会

◎第1ブロック予選

〈男子〉

▼リーグ戦

京葉　19－11　房総学園

市原　16－9　鶴舞商

木更津　18－7　拓大紅陵

房総学園　11－7　鶴舞商

京葉　24－15　拓大紅陵

木更津　17－11　市原

京葉　22－9　鶴舞商

拓大紅陵　27－13　房総学園

木更津　16－3　鶴舞商

市原　15－15　拓大紅陵

木更津　26－8　房総学園

京葉　21－12　市原

拓大紅陵　20－8　鶴舞商

京葉　15－12　木更津

市原　12－9　房総学園

〔順位〕①京葉②木更津③市原④拓大紅陵⑤房総学園⑥鶴舞商

〈女子〉

▼リーグ戦

御宿家政　16－15　東金女

〔順位〕①御宿家政②東金女

◎第2ブロック

〈男子〉

▼リーグ戦

八千代　21－6　秀明八千代

東京学館　12－0　四街道

八千代　29－14　佐原

東京学館　32－13　秀明八千代

佐原　12－0　四街道

佐原　23－9　秀明八千代

八千代　12－0　四街道

東京学館　26－9　佐原

秀明八千代　12－0　四街道

八千代　19－12　東京学館

〔順位〕①八千代②東京学館③佐原④秀明八千代⑤四街道

〈女子〉

▼リーグ戦

佐原　12－11　佐原女

佐原女　12－0　四街道

佐原　12－0　四街道

〔順位〕①佐原②佐原女③四街道

◎第3ブロック

〈男子〉

▼リーグ戦

若松　20－7　生浜

千葉南　21－16　士気

若松　19－12　泉

千葉南　15－15　生浜

泉　20－8　士気

若松　24－9　士気

泉　16－7　生浜

若松　26－7　千葉南

士気　13－8　生浜

泉　16－13　千葉南

〔順位〕①若松②泉③千葉南④士気⑤生浜

〈女子〉

▼リーグ戦

泉　10－7　生浜

若松　29－8　士気

若松　21－4　泉

若松　27－7　生浜

士気　19－16　生浜

士気　12－9　泉

〔順位〕①若松②士気③泉④生浜

◎第4ブロック

〈男子〉

▼Aブロックリーグ戦

船橋旭　9－8　船橋東

幕張北　21－3　鎌ヶ谷

船橋東　24－4　鎌ヶ谷

船橋旭　13－11　幕張北

船橋東　18－4　幕張北

船橋旭　13－8　鎌ヶ谷

〔順位〕①船橋旭②船橋東③幕張北④鎌ヶ谷

▼Bブロックリーグ戦

船橋西　24－17　船橋法典

船橋法典　14－9　渋谷幕張

船橋西　18－7　渋谷幕張

〔順位〕①船橋西②船橋法典③渋谷幕張

▼1、2位決定戦

船橋西　19－15　船橋旭

船橋法典　19－15　船橋旭

▼3位決定トーナメント

船橋東　24－9　渋谷幕張

幕張北　17－9　船橋東

幕張北　17－11　船橋法典

〔順位〕①船橋西②船橋旭③幕張北

〈女子〉

▼リーグ戦

東邦　8－7　若葉看護

東邦　14－3　幕張北

若葉看護　10－10　幕張北

〔順位〕①東邦②若葉看護③幕張北

◎第5ブロック

〈男子〉

▼リーグ戦

二松沼南　20－16　県沼南

二松沼南　39－1　柏

県沼南　23－18　柏

我孫子　27－9　柏

我孫子　23－13　県沼南

二松沼南　24－11　我孫子

〔順位〕①二松沼南②我孫子③県沼南④柏

◎第6ブロック

〈男子〉

▼Aリーグ

柏南　22－10　柏陵

柏南 17－16 東葛飾
東葛飾 16－8 柏陵

▼Bリーグ
芝浦工大 12－0 流山中央
芝浦工大 31－7 清水
清水 12－0 流山中央

▼決勝トーナメント
柏陵 16－13 清水
柏南 17－14 柏陵
東葛飾 16－11 流山中央
芝浦工大 19－16 東葛飾

▼3位決定戦
東葛飾 28－10 柏陵

▼決勝
芝浦工大 26－21 柏南

〈女子〉

▼予選リーグ1回戦
流山中央 12－0 柏南
東葛飾 12－0 柏南
流山中央 30－13 東葛飾

▼予選リーグ2回戦
流山中央 12－0 柏南
東葛飾 12－0 柏南
流山中央 23－9 東葛飾
〔順位〕①流山中央②東葛飾③柏南

◎第7ブロック

〈男子〉

▼Aブロックリーグ戦
小金 12－5 国府台
小金 27－12 専大松戸
専大松戸 11－9 国府台
〔順位〕①小金②専大松戸③国府台

▼Bブロックリーグ戦
松戸秋山 14－5 市立松戸
松戸六実 19－12 市立松戸
松戸秋山 14－9 松戸六実
〔順位〕①松戸秋山②松戸六実③市立松戸

▼順位決定戦
小金 14－10 国府台
松戸秋山 26－14 専大松戸
〔順位〕①松戸秋山②小金③松戸六実④専大松戸

〈女子〉

▼リーグ戦
聖徳 12－0 市立松戸
専大松戸 13－12 松戸六実
専大松戸 13－2 松戸六実
専大松戸 15－9 聖徳

▼3位決定戦
松戸六実 12－0 市立松戸
〔順位〕①専大松戸②聖徳学園③松戸六実④松戸秋山⑤市立松戸

◎第8ブロック

▼リーグ戦
学館浦安 41－9 国分
学館浦安 46－13 市川西
市川西 31－23 国分
〔順位〕①学館浦安②市川西③国分

◎県大会
（1月13～15日／市川市民体育館、県立市川西高校ほか）

〈男子〉

▼1回戦
柏南 13－11 幕張北
木更津 19－12 我孫子
小金 22－18 船橋旭
市川西 18－18 東葛飾
泉 9－9 市原

▼2回戦
市川 15－7 柏東
二松沼南 24－7 木更津
八千代 13－12 芝浦工大柏
東京学館 18－7 小金
学館浦安 35－7 市川西
若松 24－8 松戸秋山
京葉 14－11 船橋西
東邦 19－5 泉

▼3回戦
市川 19－11 二松沼南
八千代 12－12 東京学館（7PTC6）
学館浦安 19－13 若松
東邦 19－6 京葉

▼準決勝
市川 13－12 八千代
学館浦安 12－12 東邦（3PTC2）

▼決勝
学館浦安 20（14－7、6－4）11 市川

〈女子〉

▼1回戦
昭和学院 26－3 泉
佐原 7－5 士気
若松 10－9 若葉看護
東邦 24－1 松戸六実
佐原女子 11－7 聖徳
東葛飾 18－4 御宿家政
流山中央 24－4 専大松戸
和洋 16－5 幕張北

▼2回戦
昭和学院 32－6 佐原
東邦 19－13 若松
東葛飾 11－7 佐原女子

▼準決勝
和洋 18－10 流山中央
昭和学院 25－17 東邦
和洋 24－4 東葛飾

▼決勝
昭和学院 18（8－9、10－4）13 和洋

東海

愛知県高校新人大会

（1月14、15、21日／名古屋市総合第2体育館ほか）

◎西三河支部予選会

〈男子〉

▼1回戦
豊田 24－8 高浜
豊野 18－5 幸田
岡崎北 10－7 西尾東
衣台 14－11 刈谷工
刈谷 19－3 碧南工
吉良 18－13 岡崎工
安城南 11－8 刈谷北
岡崎 14－10 碧南
西尾 22－22 一色
豊田南 21－8 安城

▼2回戦
岡崎城西 26－7 豊田
豊野 16－11 岡崎北
岡崎東 14－11 衣台
刈谷 21－13 安城東
岡崎西 27－8 吉良
三河 20－16 安城南
岡崎 28－9 西尾
知立東 12－10 豊田南

▼3回戦
岡崎城西 31－8 豊野
岡崎東 18－13 刈谷
岡崎西 22－21 三河
知立東 16－4 岡崎

▼5～8位決定リーグ
三河 23－17 岡崎
岡崎 18－17 豊野
岡崎 25－17 刈谷
三河 20－20 豊野
刈谷 24－21 三河
豊野 17－13 刈谷

▼1～4位決定リーグ
岡崎城西 28－15 岡崎西
岡崎城西 30－12 知立東
岡崎城西 40－13 岡崎東
岡崎西 19－16 知立東
岡崎西 26－19 岡崎東
知立東 18－10 岡崎東

〈女子〉
▼1回戦
愛教大附 15－1 碧南
岡崎北 18－8 安城南
豊野 8－5 吉良
知立 14－12 西尾東
安城 不戦勝 岡崎商
豊田 17－5 知立東
刈谷 11－2 幸田
岡崎 9－2 衣台
西尾 12－5 安城東
刈谷北 不戦勝 豊田東
岩津 28－1 一色

▼2回戦
安城学園 17－1 愛教大附
岡崎北 12－4 豊野
岡崎東 16－6 知立
三好 13－2 安城
豊田南 16－8 豊田
岡崎 11－5 刈谷
西尾 11－9 刈谷北
岡崎西 30－3 岩津

▼3回戦
安城学園 16－2 岡崎北
三好 14－5 岡崎東
豊田南 10－5 岡崎
岡崎西 24－3 西尾

▼5～8位決定リーグ
岡崎東 13－8 岡崎
岡崎東 19－8 岡崎北
岡崎東 10－7 西尾
岡崎 12－5 岡崎北
岡崎 16－9 西尾
岡崎北 11－6 西尾

▼1～4位決定リーグ
安城学園 15－7 三好
安城学園 8－5 豊田南
安城学園 12－6 岡崎西
三好 9－6 豊田南
三好 9－4 岡崎西
豊田南 9－8 岡崎西

◎名南支部予選会

〈男子〉
▼1回戦
名古屋南 19－14 享栄
鳴海 27－9 名城大附
瑞陵 23－12 東郷
名古屋大谷 24－21 名市工
天白 32－10 名商大付
昭和 16－12 日進西
星城 13－12 日進
熱田 21－15 同朋
豊明 19－11 富田
中村 25－11 南陽
惟信 19－13 松蔭

▼2回戦
桜台 33－6 名古屋南
瑞陵 16－12 鳴海
緑 31－10 名古屋大谷
向陽 27－13 天白
名南工 29－18 昭和
熱田 25－12 星城
中村 19－11 豊明
中京 41－9 惟信

▼3回戦
桜台 23－15 瑞陵
向陽 23－14 緑
名南工 20－14 熱田
中京 25－8 中村

▼準決勝
桜台 23－11 向陽
中京 20－12 名南工

▼3位決定戦
向陽 22－9 名南工

▼決勝
桜台 23（12－6、11－9）15 中京

〈女子〉
▼1回戦
南陽 19－10 日進西
松蔭 14－7 瑞陵
惟信 10－4 東郷
向陽 14－6 緑
中村 不戦勝 若宮商
名古屋南 14－11 豊明

▼2回戦
名短付 42－2 南陽
松蔭 15－7 昭和
鳴海 18－10 中川商
桜台 15－12 惟信
向陽 17－16 天白
中村 16－5 高蔵
熱田 10－6 星城
東海女 45－0 名古屋南

▼3回戦
名短付 29－5 松蔭
鳴海 13－8 桜台
向陽 18－2 中村
東海女 31－0 熱田

▼準決勝
名短付 40－1 鳴海
東海女 25－3 向陽

▼3位決定戦
鳴海 16－7 向陽

▼決勝
名短付 19（8－6、11－8）14 東海女

◎尾張支部予選会

〈男子〉
▼1回戦
一宮興道 26－1 大成
江南 14－3 起工
犬山南 30－9 一宮工
小牧西 22－9 弥富
稲沢 17－15 小牧工
尾西 12－7 犬山
西春 15－6 尾関学園
一宮南 16－8 稲沢東
佐織工 19－8 岩倉
一宮北 23－7 津島
美和 20－9 新川
平和 12－11 丹羽

▼2回戦
一宮興道 13－7 一宮西
犬山南 23－7 江南

小牧南 24－9 稲沢
蟹江 14－13 尾西
五条 20－9 西春
佐織工 14－7 一宮南
一宮北 20－7 美和
一宮 13－7 平和

▼3回戦
犬山南 18－9 一宮興道
小牧南 18－14 蟹江
五条 13－12 佐織工
一宮北 10－9 一宮

▼準決勝
犬山南 24－23 小牧南
五条 21－13 一宮北

▼3位決定戦
一宮北 15－9 小牧南

▼決勝
犬山南 20 (13－11, 7－7) 18 五条

〈女子〉

▼1回戦
江南 8－7 一宮西
平和 9－7 津島
蟹江 8－6 稲沢東
美和 16－8 新川

▼2回戦
木曽川 15－0 一宮
一宮商 24－5 小牧南
犬山南 11－9 江南
尾西 20－7 平和
尾北 17－9 蟹江
西春 22－1 一宮北
一宮女 17－9 美和

▼3回戦
木曽川 7－6 佐屋
犬山南 13－8 一宮商
尾西 14－6 尾北
一宮女 10－7 西春

▼準決勝
木曽川 14－7 犬山南
一宮女 16－9 尾西

▼3位決定戦
犬山南 17－16 尾西

▼決勝
木曽川 9 (4－3, 5－4) 7 一宮女

◎名北支部予選会

〈男子〉

▼1回戦
高蔵寺 22－5 長久寺
北 17－12 春日井東
旭丘 18－4 名大付
市工芸 26－16 名東
名古屋西 10－5 東山工
旭野 18－10 愛知工
山田 17－13 瀬戸
春日井西 17－16 春日井
栄徳 17－12 春日井工
瀬戸西 10－10 (PTC 2－0) 春日丘

▼2回戦
守山 29－11 東邦
春日井南 16－14 高蔵寺
千種 17－12 北
旭丘 20－6 市工芸
菊里 28－8 旭野
春日井西 35－12 山田
栄徳 13－9 瀬戸西
東海 21－11 守山

▼3回戦
春日井南 20－13 千種
菊里 17－14 旭丘
愛知 24－15 春日井西
東海 37－5 栄徳

▼準決勝
菊里 22－15 春日井南
愛知 31－20 東海

▼3位決定戦
東海 22－15 春日井南

▼決勝
愛知 26 (13－8, 13－5) 13 菊里

〈女子〉

▼1回戦
瀬戸西 9－2 春日井商
名古屋西 7－4 長久手
瀬戸 17－15 千種
守山 14－7 東邦
北 15－13 春日井南
春日井西 22－4 名東
高蔵寺 31－13 春日井東
淑徳 10－8 名古屋商

▼2回戦
中京女 19－5 瀬戸西
名古屋西 5－5 (PTC 1－0) 西陵商
春日井 19－12 瀬戸
守山 10－8 愛知商
北 11－5 市邨
旭野 11－11 (PTC 2－1) 春日井西
菊里 10－7 高蔵寺
緑丘商 25－6 淑徳

▼3回戦
中京女 15－5 名古屋西
春日井 14－9 守山
旭野 11－7 北
緑丘商 19－9 菊里

▼準決勝
中京女 15－14 春日井
緑丘商 15－13 旭野

▼3位決定戦
旭野 14－11 春日井

▼決勝
緑丘商 14 (8－6, 6－5) 11 中京女

◎東三河支部予選会

〈男子〉

▼1回戦
豊橋工 20－14 豊橋東
豊丘 15－12 新城東
時習館 13－10 御津
豊川工 21－11 豊橋南
国府 24－18 豊橋西
三谷水産 29－11 豊橋商
蒲郡東 28－12 蒲郡

▼2回戦
豊橋工 19－17 桜丘
時習館 10－9 豊丘
豊川工 25－10 国府
蒲郡東 25－10 三谷水産

▼決勝リーグ
蒲郡東 19－16 豊川工
蒲郡東 18－12 時習館
蒲郡東 27－10 豊橋工
豊川工 23－15 時習館
豊川工 26－12 豊橋工
時習館 15－15 豊橋工

〈女子〉

▼1回戦
蒲郡 17－13 豊橋東
蒲郡東 15－3 御津
豊丘 11－8 新城東
国府 11－9 宝陵

▼2回戦
豊橋商 31－7 蒲郡
時習館 13－12 蒲郡東
豊橋西 15－10 豊丘
豊橋南 19－5 国府
▼決勝リーグ
豊橋南 13－9 豊橋商
豊橋南 11－9 豊橋西
豊橋南 10－9 時習館
豊橋商 15－10 豊橋西
豊橋商 24－7 時習館
豊橋西 13－12 時習館

◎知多支部予選会
〈男子〉
▼1回戦
阿久比 14－13 大府
東浦 16－10 知多
東海南 23－7 常滑北
武豊 14－13 横須賀
▼2回戦
半田 28－11 阿久比
半田東 20－11 東浦
半田工 13－12 東海南
知多東 32－10 武豊
▼準決勝
半田東 9－8 半田
知多東 24－20 半田工
▼3位決定戦
半田 27－13 半田工
▼決勝
半田東 23－17 知多東
〈女子〉
▼1回戦
常滑北 9－6 東浦
阿久比 11－7 東海商
内海 12－6 東海南
半田東 11－6 大府
桃陵 19－4 知多
半田商 14－3 知多東
▼2回戦
半田 18－4 常滑北
内海 18－7 阿久比
半田東 12－5 桃陵
武豊 9－5 半田商
▼準決勝
半田 17－7 内海
武豊 9－5 半田東
▼3位決定戦
内海 10－7 半田東
▼決勝
半田 12－11 武豊

◎県大会
〈男子〉
▼1回戦
半田 18－10 時習館
東海 14－12 名南工
知立東 28－14 小牧南
向陽 27－13 一宮北
豊川工 28－14 岡崎東
春日井南 18－16 五条
▼2回戦
岡崎城西 26－7 半田
東海 24－12 犬山南
菊里 34－16 知多東
中京 25－13 知立東
愛知 32－20 向陽
岡崎西 22－17 蒲郡東
半田東 30－15 豊川工
桜台 21－11 春日井南
▼3回戦
岡崎城西 23－10 東海
中京 22－21 菊里
愛知 33－15 岡崎西
桜台 19－7 半田東
▼決勝リーグ
岡崎城西 20－14 中京
愛知 16－15 桜台
愛知 21－20 岡崎城西
桜台 20－11 中京
桜台 15－13 岡崎城西
中京 21－14 愛知
〔順位〕①桜台②愛知③岡崎城西④中京
〈女子〉
▼1回戦
豊田南 21－16 春日井
一宮女 19－12 豊橋西
犬山南 18－12 向陽
岡崎西 21－3 内海
武豊 11－10 旭野
尾西 18－11 鳴海
▼2回戦
名短付 25－1 豊田南
半田 14－7 一宮女
三好 18－4 豊橋商
中京女 11－4 犬山南
緑丘商 19－6 岡崎西
東海女 22－4 木曽川
武豊 19－11 豊橋南
安城学園 21－10 尾西
▼3回戦
名短付 28－7 半田
三好 18－4 中京女
東海女 19－5 緑丘商
安城学園 14－11 武豊
▼決勝リーグ
名短付 21－8 三好
東海女 23－6 安城学園
名短付 24－12 東海女
三好 11－11 安城学園
名短付 33－10 安城学園
東海女 20－5 三好
〔順位〕①名短付②東海女子③三好④安城学園

中国

第19回広島県室内総合選手権

（1月20、21日／広島県立体育館）

〈一般男子一部〉
▼1回戦
呉高専 23－16 広島工大
▼準決勝
広島大 29－17 呉高専
教員団A 34－18 送球会
▼決勝
広島大 22（13－7、9－12）19 教員団A
〈一般男子二部〉
▼1回戦
マツダ 29－21 尾道ク
▼準決勝
マツダ 24－22 修道クA
日本製鋼 棄権 フルタカ
▼決勝
マツダ 46（23－3、23－5）8 日本製鋼
〈一般男子三部〉
修道クB 39－8 広島市役所
幹部候補生 31－24 教員団B
▼準決勝
呉クラブ 19－12 修道クB
▼決勝
菊翔会 23－17 幹部候補生
呉クラブ 28（16－8、12－8）16 菊翔会
〈一般女子〉
▼1回戦
松賀ク 20－4 亀山ク
▼準決勝
広島ク 31－1 松賀ク
山陽ク 22－5 第一女ク
▼決勝
広島ク 21（11－4、10－6）10 山陽ク
〈高校男子〉
▼1回戦
呉港 27－5 廿日市
三津田 21－12 賀茂
三原工 25－9 呉商
安芸南 13－10 呉
呉工 28－3 安芸
尾道 14－9 広
市福山 20－19 城北
昭和 24－20 宮原
▼2回戦
呉港 16－14 三津田
安芸南 24－12 三原工
呉工 9－8 尾道
昭和 17－16 市福山
▼準決勝
呉港 21－7 安芸南
呉工 14－11 昭和
▼決勝
呉港 30（16－4、14－1）5 呉工
〈高校女子〉
▼1回戦

山陽女 40－0 宮原
賀茂 12－10 進徳女
安芸南 11－5 清水丘
豊栄 33－4 安芸
▼準決勝
山陽女 29－2 賀茂
豊栄 12－9 安芸南
▼決勝
山陽女 27（13－2、14－3）5 豊栄

第29回山口県総合選手権

（1月28日／山口県スポーツ文化センター）

〈男子〉
▼予選Aリーグ
山口県教員団A 30－8 山陽国策パルプ
▼予選Bリーグ
下松ク 25－21 山口大
山口大 25－12 周南ク
▼予選Cリーグ
徳山曹達 15－14 山口県教員団B
▼予選Dリーグ
下関ク 24－19 興亜石油
徳山ク 17－18 興亜石油
▼第2位グループ1回戦
山口大 20－15 山陽国策パルプ
山口県教員団B 22－21 徳山ク
▼同2回戦
山口県教員団B 23－22 山口大
▼決勝トーナメント1回戦
山口県教員団A 26－17 下松ク
下関ク 16－12 徳山曹達
▼決勝
山口県教員団A 22（10－12、12－7）19 下関ク

〈女子〉
▼決勝
徳山ク 15（11－4、4－7）11 山口ク

四国

愛媛県高校1年生大会

（12月23、24日／松山市コミュニティセンター体育館）

〈男子〉
▼1回戦
松山工 21－17 宇和南
新居浜工 23－9 松山北
伊予 17－9 今治東
今治西 29－8 松山南
▼準決勝
新居浜工 17－15 松山工
今治西 32－13 伊予
▼決勝
新居浜工 26（11－12、15－13）25 今治西

〈女子〉
▼1回戦
今治南 19－2 松山西
今治東 26－7 伊予農
新居浜商 29－5 伊予
今治北 17－6 松山北
▼準決勝
今治南 18－12 今治東
新居浜商 16－15 今治北
▼決勝
新居浜商 13（6－2、7－0）2 今治南

香川県中学校1年生大会

（2月11日／光洋中学）

〈男子〉
▼1回戦
綾南 16－13 玉藻
木太 11－4 山田
香東 10－3 紫雲
古高松 12－1 桜町
▼2回戦
綾南 12－6 光洋
勝賀 14－7 木太
竜雲 12－11 香東
香川一 11－7 古高松
▼準決勝
勝賀 17－10 綾南
香川一 12－5 竜雲
▼決勝
香川一 10（5－2、5－5）7 勝賀

〈女子〉
▼1回戦
竜雲 不戦勝 桜町
香川一 15－4 香東
光洋 8－5 玉藻
▼2回戦
古高松 9－3 竜雲
木太 7－6 香川一
山田 23－4 光洋
紫雲 7－4 綾南
▼準決勝
木太 7－3 古高松
山田 12－5 紫雲
▼決勝
木太 10（4－3、6－6）9 山田

九州

第28回鹿児島県室内総合選手権

〈男子一部〉
▼決勝リーグ
ソニー国分 20－16 鹿児島大
ソニー国分 27－24 鹿児島ク
ソニー国分 21－20 鹿工クA
鹿工クA 27－23 鹿児島大
鹿工クA 26－22 鹿児島ク
鹿児島ク 23－22 鹿児島大
〔順位〕①ソニー国分②鹿工クA③鹿児島ク④鹿児島大

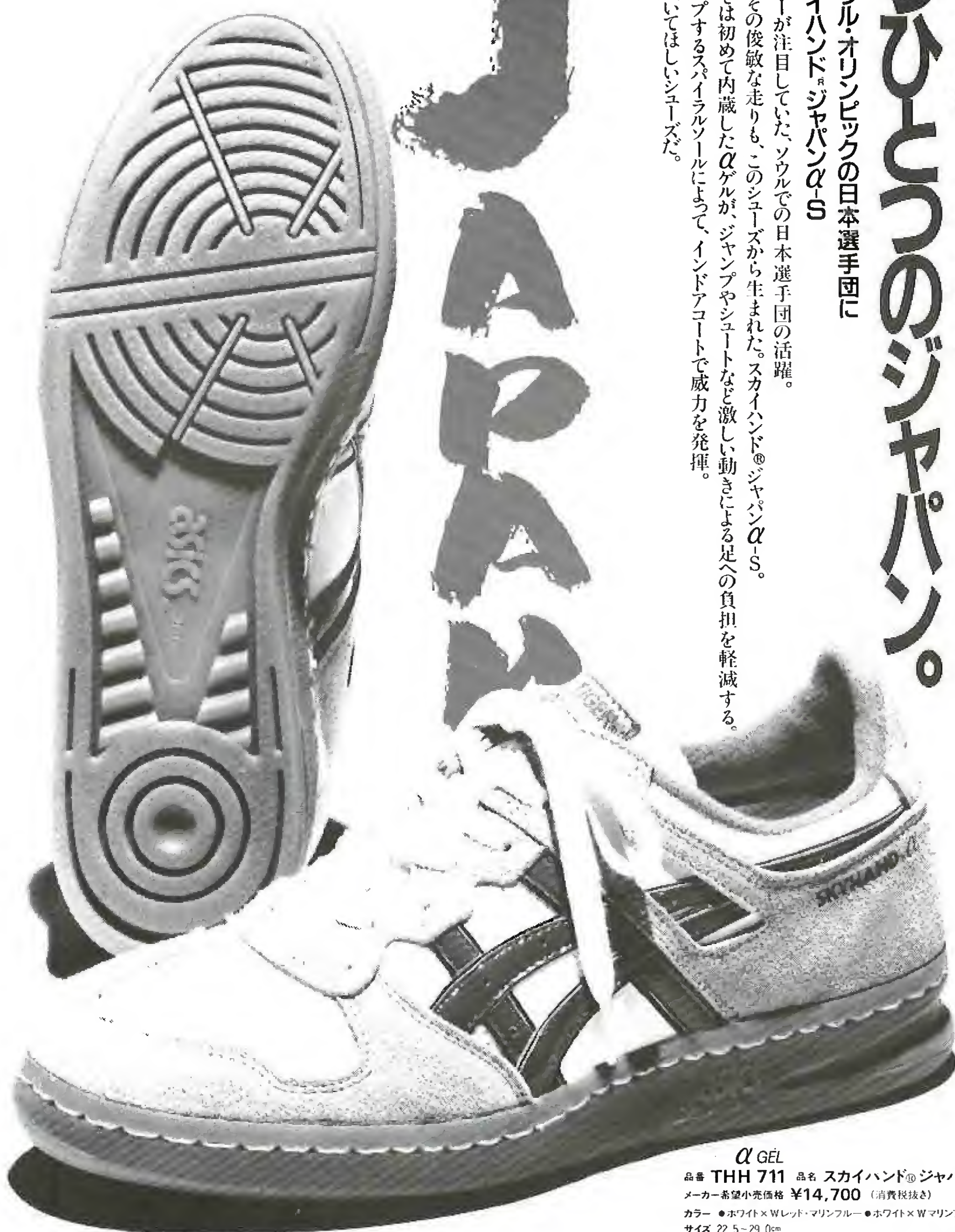
〈男子二部〉
▼1回戦
付属ハンドク 16－12 鹿大体育科
鹿商クA 不戦勝 鹿工クB
東谷山OB 16－14 頴娃クB
鹿児島OB 17－12 鹿児島高専
出水高ク 16－9 甲陵高ク
中央ク 19－14 加治木工クB
鹿工高クA 23－11 隼人蜂蜜レモン
甲陵ク 14－11 鹿児島市役所
大浦サンライズ 20－14 鹿商クB
笠沙OB 19－18 鹿工高クB
鹿大同好会 21－11 加治木工クA
頴娃クA 9－8 鹿児島南ク
揖宿ク 18－11 鹿工高クC
▼2回戦
付属ハンドク 21－20 薩南工ク
東谷山OB 21－12 鹿商クA
出水高ク 26－11 鹿児島南OB
鹿工高クA 21－10 中央ク
ベアーズ 27－17 甲陵ク
笠沙OB 36－18 大浦サンライズ
頴娃クA 12－9 鹿大同好会
第一工業大 20－16 揖宿ク
▼3回戦
付属ハンドク 18－15 東谷山OB
鹿工高クA 21－10 出水高ク
笠沙OB 29－28 ベアーズ
第一工業大 24－13 頴娃クA
▼準決勝
鹿工高クA 27－13 付属ハンドク
第一工業大 29－23 笠沙OB
▼決勝
鹿工高クA 34（15－12、19－7）19 第一工業大

〈女子〉
▼1回戦
ソニー国分 18－6 国分実クB
フレッシュ国分 18－7 伊敷中ク
牧園高ク 13－11 純心クB
鹿児島南ク 29－1 重富B
純心クA 不戦勝 牧園高
鹿児島南3年 28－4 重富A
国分実クA 14－13 あまみ
鹿児島ク 22－8 中央ク
▼2回戦
ソニー国分 31－7 フレッシュ国分
鹿児島南ク 15－4 牧園高ク
純心クA 23－17 鹿児島南3年
鹿児島ク 23－7 国分実クA
▼準決勝
ソニー国分 33－2 鹿児島南ク
純心クA 20－18 鹿児島ク
▼決勝
ソニー国分 24（13－6、11－4）10 純心クA

平成２年度（1990年）事業日程表

㈶日本ハンドボール協会

	全国大会(国内)	主要国内大会	国際交流・大会
'90/ 4			実業団；東日本選抜　日韓交流遠征 4/5～4/15　韓国
5	第31回実業団選手権；男子　5/18～5/20　名古屋 ；女子　5/18～5/20　境		'90 JAPANカップ；男女・N　5/4～5/6　東京 女・J　カナダ遠征　(5/20～6/8)　カナダ
6			日本学生選抜；男子・西ドイツ学生選抜交流 6/23～6/30　名古屋、他各地
7		ＪＨＬカップ（未定） 五大都市体育大会	日本学生選抜；男子　海外遠征（7/中） グッドウイルゲーム；男・N　7/15～7/28 アメリカ 第１回女子ジュニア・アジア選手権 7/7～7/14　中国
8	第３回全国小学生大会　8/5～8/7　京都 第19回全国中学校大会　8/21～8/24　香川 第41回全日本高校選手権　8/1～8/7　仙台 第17回全国高専選手権　8/5～8/7　釧路 第10回全国クラブ選手権　8/4～8/6　前橋 第33回全日本教職員選手権　8/9～8/13　小松	東日本学生選手権　8/18～8/22　福井 西日本学生選手権　8/17～8/21　呉 国体ブロック大会(8/下)9ブロック各地 東北　8/31～9/2　山形 北信越　8/24～8/26　富山 関東　8/24～8/26　八王子 東海　8/25～8/26　岐阜 近畿　8/24～8/26　滋賀 中国　8/24～8/26　鳥取 四国　8/19～8/20　高知 九州　8/24～8/26　宮崎	日韓ジュニア交流；高校生　8/中　韓国　春川市 女・N　オーストリア国際　8/27～9/10 オーストリア 第２回男子ジュニア・アジア選手権 8/8～8/19　イラン
9	第22回全日本自衛隊選手権　(9/中)　駒沢		第11回アジア競技大会；男女・N　9/22～10/7 北京 ハンド　9/24～10/5　北郊体育館
10	第45回国民体育大会　10/21～10/26　福岡		
11	第33回全日本学生選手権　10/30～11/4　名古屋 第15回日本リーグ；前期　11/3～12/9　各地		※第10回女子世界選手権　11/24～12/4　韓国
12	第42回全日本総合選手権　12/13～12/16　東京		第11回世界学生選手権；全日本学生男子 12/7～12/17　オランダ
'91/ 1			第８回ジュニア世界選手権アジア予選（予定） 男・N　ヨーロッパ遠征　1/22～2/7
2	第22回実業団男子トーナメント　2/9～2/11　山口 第15回日本リーグ；後期　2/16～3/24　各地		実業団；西日本選抜　日韓交流試合　2/下 日本国内
3	平成２年度全国高校選抜　3/24～3/28　名古屋 日本リーグ入替戦　3/30～3/31		女・N　ヨーロッパ遠征　3/3～3/25　チェコ他 男・N　韓国遠征合宿　3/16～3/22　韓国 男・JR　ヨーロッパ遠征　3/21～3/31



ソウルで活躍した、もうひとつのジャパン。

これが頂点。ソウル・オリンピックの日本選手団に採用されたスカイハンド®ジャパンα-S

すべてのハンドボーラーが注目していた、ソウルでの日本選手団の活躍。その鋭い切れ味も、その俊敏な走りも、このシューズから生まれた。スカイハンド®ジャパンα-S。ハンドボールシューズでは初めて内蔵したαゲルが、ジャンプやシュートなど激しい動きによる足への負担を軽減する。吸いつくようにグリップするスパイラルソールによって、インドアコートで威力を発揮。これは、胸をはって履いてほしいシューズだ。

α GEL
品番 THH 711 品名 スカイハンド® ジャパンα-S
メーカー希望小売価格 ¥14,700 (消費税抜き)
カラー ●ホワイト×Wレッド・マリンブルー ●ホワイト×Wマリンブルー・レッド
サイズ 22.5～29.0cm

asics® TIGER®

●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックス消費者相談室までどうぞ
〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表)
〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)624-1814(専用)・(03)624-2221(大代表)
■Rは㈱アシックスの登録商標です

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二九七号
昭和四十年六月[illegible]日 平成二年四月二十六日 印刷
第三種郵便物認可 平成二年五月一日 発行

東京都渋谷区[illegible]
電話 代表 (481) 二三六一
振替 東京 六—五八三四八番
編集兼 発行人 安藤 純光

定価三百五拾円
(年間購読料 三千三百円)